長崎県文化財調査報告書 第182集

長崎県埋蔵文化財調査年報12

〔平成15年度調査分〕

2005

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県内には，国指定特別史跡「原の辻遺跡」をはじめ多くの遺跡・埋蔵文化財があります。これらは，私たちが遠い祖先から受け継いできた貴重な文化遺産であり，現代に生きる私たちには，これらを地域の貴重な財産として，後世に保存・継承していくとともに，広く活用を図っていく責務があります。

そのため，本県においても，埋蔵文化財の発掘調査等や「原の辻大学講座」など，文化財の保護・活用に積極的に取り組んでいます。

本書は，平成15年度に県が中心となり，県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査と遺跡の保護・保存・活用のための諸事業の概要を，年報として紹介するものです。

今後とも，埋蔵文化財の保存・活用へのご理解をいただきますとともに，本書が広く活用されることを期待します。

平成17年３月

長崎県教育委員会教育長　　立　石　　暁

例　　言

1　本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成15年４月１日から平成16年３月31日までに実施した16カ所の発掘調査の概要を収録したものである。

2　各遺跡の調査概要中の位置図は，国土地理院発行の地図を使用し，［　］内は図幅名を表す。

3　本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。

4　平成７年度分より，壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については，調査事務所の調査年報に概要を収録することにしている。

5　各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，文末に記した。

6　本書の編集は，長崎県教育委員会学芸文化課文化財保護主事 和田政則 が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1

二　県事業について …… 2

三　県内の調査動向・研究活動（文献一覧） ……13

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 ……19

五　事業別発掘調査届出件数及び県市町村別埋蔵文化財職員数の推移 ……25

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成15年度長崎県内発掘調査箇所 ……26

①長崎奉行所跡　（長 崎 市）……27
②岩原目付屋敷跡　（長 崎 市）……28
③炉粕町遺跡　（長 崎 市）……29
④門前遺跡　（佐世保市）…30・31
⑤小野Ｆ遺跡　（佐世保市）……32
⑥九州文化学園構内遺跡（佐世保市）……33
⑦竹辺Ｃ遺跡　（佐世保市）……34
⑧竹辺Ｄ遺跡　（佐世保市）……35
⑨橘遺跡　（五 島 市）……36
⑩七目遺跡　（有 川 町）……37
⑪雷命神社下遺跡（厳 原 町）……38
⑫今屋敷家老屋敷跡　（厳 原 町）…39・40
⑬カラカミ遺跡　（勝 本 町）……41
⑭魚洗川Ｂ遺跡　（国 見 町）……42
⑮上篠原遺跡　（国 見 町）……43
⑯下木場遺跡　（有 家 町）……44

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

1　文化財保護の基本と埋蔵文化財

（1）埋蔵文化財とは

文化財保護法では，「土地に埋蔵されている文化財」を「埋蔵文化財」と規定している（文化財保護法第57条第1項）。

埋蔵文化財は，他の有形文化財とは異なり，土地に埋蔵されているため発掘調査等によりその価値が判明してくるなどの特性を有している。発掘調査等でこの特性が判明すれば，それぞれの文化財である史跡や考古資料としての扱いがなされる。

埋蔵文化財は，そのままの状態では十分な価値判断ができないことから，文化財保護法ではこれらすべての埋蔵文化財を保護の対象とし，一定の手続きが定められている。

「埋蔵文化財」はこのように文化財保護法制定とともに作られた法律・行政用語であり，考古学など一般的には「遺跡」「遺構」「遺物」を指しており，遺跡地図等によって把握されている遺跡は「周知の埋蔵文化財包蔵地」と表記され，指定を受けずとも保護されている。

（2）埋蔵文化財の特徴

① 土地に埋蔵されているために，その所在が知られていないものも多い。
② 土地に埋蔵されているために，範囲が確定していないことが多い。
③ 性格・価値を明確にするには発掘調査が必要（範囲確認調査）。
④ 価値の観点は学術上のものであること。
⑤ 一度破壊されると元にもどすことができない（発掘調査も一種の破壊である）。
⑥ 埋蔵文化財包蔵地は私有財産である場合が多く，所有者と利害が対立することがある。
⑦ 何ら指定等による対象の特定を必要としない（遺跡というだけで保護される）。

2　埋蔵文化財の保護と連携

埋蔵文化財保護と開発事業との調整において，無届工事による埋蔵文化財包蔵地の一部損壊が認められ，厳重注意等の指導対応が行われている現実を改善し，埋蔵文化財を将来に残していくには，文化財担当部局だけでなく，開発部局担当との連携が必要である。

- 遺跡は過去の産物ではなく，現代・同時代的な存在であり，将来に伝え残していくには，現在に生きる私たちに命運が委ねられているといっても過言でない。
- 遺跡の内容・存在について，広報普及啓発を行って周知徹底を図っていく必要がある。
- 埋蔵文化財の保護は，文化財担当部局だけの問題でなく，開発担当部局と文化財担当部局とが，綿密に連絡・調整を行っていかねば実現できない。

二　県事業について

1　開発に伴う埋蔵文化財発掘調査

県学芸文化課では，各種開発行為に伴って現地踏査を行い，埋蔵文化財の取扱いについての協議を行って文化財保護の観点から範囲確認調査を実施している。その結果に基づいて遺跡保護のための協議を行うが，設計変更等でも遺跡を回避することができず，破壊されている部分については，本発掘調査を実施している。また，県内の市町村事業に伴って，県が調査を担当し，市町村の支援も行った。平成15年度に，県学芸文化課が実施した本調査と市町村支援として実施した調査は，次のとおりである。

○　本調査

	遺　跡　名	所在地	調　査　原　因
1	下木場遺跡	有家町	農免農道整備事業
2	今屋敷家老屋敷跡	厳原町	都市計画道路厳原豆酘美津島線道路改良工事
3	炉粕町遺跡	長崎市	歴史文化博物館（仮称）建設に係る道路改良工事
4	炉粕町遺跡	長崎市	歴史文化博物館（仮称）建設
5	岩原目付屋敷跡	長崎市	歴史文化博物館（仮称）建設
6	長崎奉行所跡	長崎市	歴史文化博物館（仮称）建設
7	門前遺跡	佐世保市	西九州自動車道建設
8	小野Ｆ遺跡	佐世保市	西九州自動車道建設

○　市町村支援調査

	遺　跡　名	所在地	調　査　原　因
1	伊古遺跡	瑞穂町	下水道工事
2	金田城跡	美津島町	史跡整備
3	麻生瀬遺跡	川棚町	農地排水対策補助事業
4	目暗原Ｃ遺跡	鹿町町	風力発電建設工事
5	大野台遺跡	鹿町町	町道深江大野線改良工事
6	中浦城跡	西海町	保存のための範囲確認調査
7	膝行神貝塚	西海町	居宅生活支援センター建物建設及び取付道路建設
8	桐ノ木遺跡	三井楽町	農道３号線建設

2　明日へつなぐ埋蔵文化財人づくり事業

（1）埋蔵文化財研修事業

本事業は，文化財担当者と開発部局担当者に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらい，その取扱いについて具体的な情報を提供することにより，円滑な埋蔵文化財行政を推進する。併せて，埋蔵文化財担当者に専門的な知識を習得する場を提供することにより，埋蔵文化財の保護と活用を図ることを目的として実施している。

○　開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎講座

日　時　平成15年６月25日（水）～26日（木）

場　所　長崎県勤労福祉会館　２階講堂

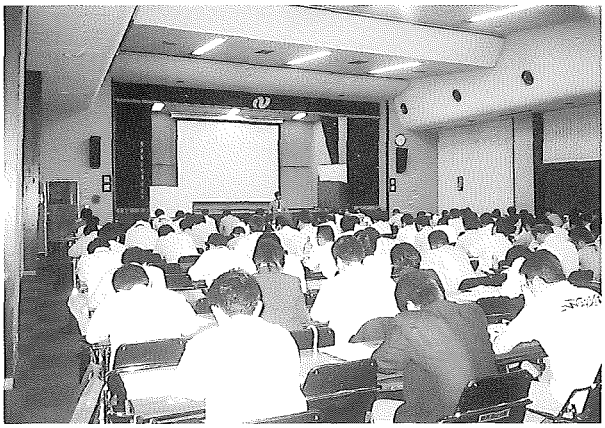
対象者　①　県・市町村の開発事業計画及び実施担当者

②　市町村教育委員会文化財担当者

③　県文化財保護指導委員

④　市町村文化財保護審議会委員

⑤　教職員他



（開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎講座）

内　容　第１日目（参加数：137名）

①　開発事業と埋蔵文化財保護行政

②　埋蔵文化財の事務処理について

③　平成14年度の長崎県内の緊急調査　（①～③：県学芸文化課　埋蔵文化財班）

④　埋蔵文化財保護行政の現状と展望　（文化庁記念物課文化財調査官　岡田　康博）

第２日目（参加数：81名）

講義「人と環境のかかわり史を探る」（国立歴史民俗博物館助教授　辻　誠一郎　先生）

○　長崎県市町村文化財担当者会議

日　時　平成15年９月11日（木）（参加数：71名）

場　所　長崎教育事務所　７階大会議室

対象者　市町村教育委員会文化財担当者

内　容　①　指定文化財の管理等について　（県学芸文化課　文化企画班）

②　国庫及び県費補助について　（県学芸文化課　文化企画班）

③　九州地区埋蔵文化財発掘調査基準について　（県学芸文化課　埋蔵文化財班）

④　事例発表

・平戸市における文化財保護行政の取り組みについて（平戸市教育委員会　加藤　有重）

・南有馬町における史跡整備の取り組みについて（南有馬町教育委員会　松本　慎二）

（２）親子古代技術体験事業

本事業は，発掘調査によって得られたデータを用いつつ親子・グループで体験的な活動を行うことにより，郷土の歴史や文化財に対する愛着を持ち，親子のふれあいを深めることをねらいとして平成11年度から実施しており本年度は事業最終年度である。具体的には，県学芸文化課職員が県内各地域の小学校へ出向き，高学年児童及びその保護者を対象に総合学習の時間等を利用して，親子で古代技術の一端を体験してもらうものである。さらに平成14年度からは，学校週五日制に伴い土曜・祝祭日に「指定地域」でも実施している。体験内容は，「舞いきり」を使った「火起こし」と，比較的軟らかな石（滑石）をブロックやヤスリで削って作る「勾玉作り」である。また，小学校や実施地域周辺の遺跡紹介や，県内の遺跡から発掘された本物の考古資料に実際に触れその使用方法等を説明する時間も設定している。平成15年度は小学校８校・指定地域２地域で実施した。実施校・実施地域・参加者数等は次のとおりである。

○　小　学　校（８校）

	日	時	実　施　校	児童数	教職員数	保護者数	計
1	６月27日	５・６校時	田平町立北小学校	５４	７	８	６９
2	７月10日	〃	豊玉町立乙宮小学校	２０	４	１６	４０
3	９月19日	〃	諫早市立真城小学校	３８	３	２３	６４
4	〃 26日	〃	聖マリア学院小学校	５４	４	１９	７７
5	10月23日	〃	福江市立大浜小学校	１４	６	２１	４１
6	11月７日	〃	大村市立富の原小学校	１２３	１０	７４	２０７
7	〃 14日	２～４校時	国見町立神代小学校	４１	９	５	５５
8	〃 14日	５・６校時	〃　土黒小学校	４０	９	１９	６８
計				３８４	５２	１８５	６２１

○　地　　域（２地域）

	日	時	実　施　地　域（開催場所）	参加者数
1	８月30日	９～12時	長崎市（於：桜町小学校・長崎奉行所跡発掘調査現場）	１７０
2	10月11日	〃	佐世保市（於：相浦小学校・門前遺跡発掘調査現場）	２２０
計				３９０

○　アンケート結果　　（単位：％）

平成13～15年度アンケート集計結果（小学校全生徒対象）	平成13年度				平成14年度				平成15年度			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか？	83	16	1	0	85	13	3	0	86	11	3	0
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか？	46	43	10	1	33	48	18	1	37	45	17	1
③火おこしは楽しかったですか？	80	16	4	0	63	28	8	1	64	25	9	2
④火おこしはうまくいきましたか？	44	32	19	5	24	18	27	31	34	25	18	23
⑤勾玉作りは楽しかったですか？	89	9	2	0	86	11	2	1	86	11	2	1
⑥勾玉作りはうまくいきましたか？	39	42	16	3	34	39	22	5	42	34	19	5
⑦仲間（保護者）と協力して作業できましたか？	71	24	4	1	58	31	9	3	63	25	11	1

実施後，昨年度に引き続き，児童・保護者・教職員を対象にアンケート調査を実施した。児童に対して実施したアンケートについて，平成13年度から平成15年度までの項目別評価を見ると，項目①・②・③・⑤で「大変良い・良い」が各年度とも大変高い数値を示しており，古代の人々の生活技術や郷土の歴史を「体験的な活動を通して学ぶ」ことに対する評価は極めて高い。道具類の準備については，学芸文化課久原資料整理室の体制が次第に整ったこともあり，平成14年度の反省を踏まえ「火起こし」道具の設定作業と乾燥を十分に行うよう努めた。「勾玉作り」では，児童・保護者がどのような勾玉を作ろうかと想像を巡らしながら楽しく勾玉を制作していた。本年度は「事前打ち合わせ」において，本事業の趣旨・内容と過去の実施状況等を詳細に説明し，事業時間の十分な確保と会場設営等の事前準備をお願いしたが，実施校等の多大な協力により万全の体制で本番に臨むことができた。

また，平成15年度は当該市町村教育委員会の協力を得て，埋蔵文化財担当専門職員の方に「学校周辺の遺跡紹介」と「遺物に触れよう」の時間を担当していただいた。地域の埋蔵文化財の特性をわかりやすく視覚的にも楽しくまとめた手作りの資料を用いた遺跡・遺物の紹介では，どのような経緯で土器や石器等が出土したのか，どのような意味や価値があるのか等をお話しいただいた。子どもたちの反応は大変良く，やはり郷土の発掘調査に基づく熱意に満ちた話には「力」があると実感させられた。

事業実施後に，本事業の内容を糸口にしてテーマ学習も展開された。本事業を題材にして日本の原始・古代に関する総合的な学習に取り組み，その成果をパソコンのプレゼンテーションソフトを使用して全校集会で発表した小学校や，手作りの感想文集を丁寧に作成した小学校もあった。

指定地域での実施については，長崎市では「長崎奉行所（立山役所）跡」発掘調査現場の見学会を，佐世保市では「門前遺跡」において発掘調査体験を古代技術体験の後に実施したが，準備段階から事後処理に至るまで両市教育委員会の格別の協力を得て盛況裡に事業を終えることができた。

本年度，指導者の立場で埋蔵文化財担当専門職員の方に参加していただいたのは，学校や地域を巻き込んでの埋蔵文化財普及・啓発活動を，市町村教育委員会が中心となってより力強く推進してもらうことを企図しているからであり，今後の啓発活動等のさらなる発展に期待したい。

本年度で５ヶ年にわたる本事業は完結する。参加希望校数のべ142校，実施校数36校，指定地域実施数４地域，参加者数は3,155名を数えた。古代の技術を実際に体験する中で親子の心のふれあいを深め，郷土の歴史や文化財に対する興味や関心を持つきっかけをつくるとともに，総合的な学習の一つの事例を紹介するという本事業の目的は十分達成することができたと考えている。今後，埋蔵文化財を活用した体験的な活動を通じて，埋蔵文化財への興味関心がさらに高まる事を願っている。

親子古代技術体験事業（火起こし）於：真城小学校

（荒　井）

3　重要遺跡情報保存活用事業

県内3,800ヶ所を数える遺跡の発掘調査などをデジタル情報として整備し，また，県内重要遺跡について詳細な内容確認調査を実施して，各種開発と地域の文化遺産を活用するため基本資料として整備している。また，各開発に対する予備調査を国庫補助金事業を受けて実施し，開発事業との円滑な調整と，文化財を活かした地域文化の振興を図るため，平成14年度（～18年度）より実施している事業である。

（1）遺跡情報システム整備事業

遺跡台帳と発掘調査で検出された遺構・遺物や写真・図面等の情報と調査履歴等をデータベース化して，開発調整や歴史教材の資料として活用する。また，遺跡の内容や調査履歴等の資料提示を迅速化させ，開発側との速やかな協議・調整を図るために実施している。平成15年度は，遺跡地図データの作成を中心に作業を行った。

（2）地域拠点遺跡内容確認調査事業

県内155ヶ所の重要遺跡のうち，55ヶ所について内容確認調査を実施して，遺跡の価値付けを行い，遺跡情報システムと連携させ，開発と遺跡の保存活用のための基本資料を整備する。年間３遺跡を調査対象とし，５年間で15遺跡を調査する。15年度は，次の３遺跡の調査を実施した。

①　カラカミ遺跡（勝本町）　②　上篠原遺跡（国見町）　③　橘遺跡（福江市）

（3）開発事業関連予備調査

本事業は，分布調査（事業対象地区に遺跡が含まれているかの有無を，現地踏査によって判断する）試掘調査（事業対象地区に未周知の遺跡が存在しているのかどうかの有無を，発掘調査によって判断する）・範囲確認調査（事業対象地区に周知の遺跡が含まれ，埋蔵文化財に影響を与える行為が計画されている範囲を対象として発掘調査を行い，遺跡の範囲を確定する）などの予備調査を行い，開発事業との円滑な調整を図ることを目的とし，年間４遺跡程度，５年間で20遺跡の調査を実施する計画である。なお，開発事業に伴う予備調査は，「文化財担当部局で負担することが望ましい」との文化庁の指導があり，調査のための経費については，国庫補助を受けて実施する。平成15年度は，次の６遺跡の範囲確認調査を実施した。

	遺　跡　名	所在地	調　査　原　因
1	七目遺跡	有川町	赤瀬川通常砂防工事
2	雷命神社下遺跡	厳原町	阿連川統合整備工事
3	魚洗川Ｂ遺跡	国見町	百花台広域公園拡張工事
4	竹辺Ｃ遺跡	佐世保市	西九州自動車道建設
5	竹辺Ｄ遺跡	佐世保市	〃
6	九州文化学園構内遺跡	佐世保市	〃

4　原の辻遺跡保存活用事業及び保存整備事業

中国の歴史書『魏志倭人伝』に記載された「一支國」。その王都に特定され，国特別史跡に指定された原の辻遺跡では，地域振興の核として活用を図るための保存活用事業及び保存整備事業を実施している。

（１）保存活用事業

①　原の辻遺跡調査事務所及び壱岐・原の辻展示館の管理運営

②　調査指導委員会の開催（第１回　平成14年７月22日，第２回　平成14年12月２日）

③　「要覧」「ニュースレター（第16号～第18号）」の刊行

④　出土遺物の複製・保存処理

⑤　調査記録ビデオの作成

⑥　三姉妹遺跡（原の辻・吉野ヶ里・平塚川添）連絡会議及び交流事業

⑦　ホームページ管理運営

⑧　原の辻大学講座「Ｄｒ.ハルの原の辻をもっと知ろう塾」（年６回）

第１回　日時：６月19日（木）19時～21時
会場：壱岐文化ホール
演題：「一支國人は焼酎を飲んだか？」
講師：辻　誠一郎
（国立歴史民俗博物館助教授）

第２回　日時：７月24日（木）19時～21時
会場：壱岐文化ホール
演題：「韓国から見た原の辻遺跡」
講師：沈　　奉謹
（韓国東亜大學校教授）

第３回　日時：８月21日（木）19時～21時
会場：壱岐文化ホール
演題：「人面石大いに語る」
講師：金関　　恕
（大阪府立弥生文化博物館館長）

第４回　日時：９月７日（日）12時30分～18時
会場：原の辻遺跡・壱岐嶋分寺・鬼の窟古墳・双六古墳・カラカミ遺跡
演題：「発掘現場見学・体験発掘・島内史跡見学」
講師：原の辻遺跡調査事務所員
芦辺町教育委員会職員・勝本町教育委員会職員

第１回　原の辻大学講座（辻先生）

第５回　日時：10月16日（木）19時～21時
会場：壱岐文化ホール
演題：「一支國の交易」
講師：高倉　洋彰（西南学院大学教授）
第６回　日時：11月13日（木）19時～21時
会場：壱岐文化ホール
演題：「なぜ壱岐に巨大古墳が多いのか？」
講師：小田富士雄（福岡大学教授）

体験発掘調査

（２）保存整備事業

①遺跡内の土地公有化　②調査研究事業（発掘調査）

平成15年度の調査は原地区・高元地区・石田高原地区で実施した。原地区では祭儀場の周辺遺構の確認を目的に調査を実施した。祭儀場の調査は平成７～８年にすでに行われており，その調査成果から周囲よりも一段高い最高地点周囲を柵列で囲み，掘立柱建物が建ち並ぶ祭儀場の姿が復元されている。今回の調査では従来柵列が巡るとされたエリアに調査区を設けた。その結果，近世以降の大規模な造成工事が行われていることが明らかとなり，周囲よりも一段高い現地形も，近世以降に形成されたものであることが分かった。また，調査区内ではピット群が検出されたが，覆土の特徴から，これらのピットが近世以降の造成工事に伴う遺構である可能性が高いことが判明した。結果として，弥生時代における祭儀場周辺の旧地形は，南北・東西方向ともなだらかな緩斜面で，従来柵列とされたピット群も掘立柱建物の一部である可能性が高くなった。このように祭儀場周辺の再調査は，旧地形や遺構群の構成について再検討を促すこととなり，祭儀場の南側では，東西に伸びる２条の環濠と切り合うような周溝状遺構の一部を検出した。これは祭儀場を構成する重要な遺構と考えられ，平成16年度も再調査する予定である。次に集落の北半分に相当する高元地区では，平成14年度以降より遺構の内容確認を目的として継続的に調査を行っている。平成15年度は前年度調査区の周辺を対象に調査を行った。その結果，竪穴住居跡19棟，土坑23基のほか，多数のピット群を検出した。特にＳＫ３とした弥生時代中期後半の長方形土坑では，床面から壁面にかけてカーボン層が約５㌢の厚さで堆積しており，土坑内からは指でこねた粘土塊が焼けた状態で出土していることから，この土坑が土器焼成遺構である可能性が高いと思われる。遺物では土坑の上層でブロック状に検出した貝層内から，弥生時代中期後半の鯨骨製「アワビオコシ」が完形で出土した。鯨骨製「アワビオコシ」は西九州地域で多く確認されているが，完形での出土は非常に珍しい。最後に南東低地部に調査区を設定した石田高原地区では，おびただしい数のピット群を検出した。ピット群は弥生時代中期を主体とするもので，少なくとも３棟以上の掘立柱建物群の存在が考えられる。また上層の観察から，建て替えが頻繁に行われたことが伺え，一定期間継続して建物群が営まれていたと思われる。建物の性格としては倉庫群のほか，竪穴住居に類似した方形の掘り込みも確認されていることから，住居群である可能性も考えられる。

（林）

5　日韓交流史理解促進事業

日韓交流史理解促進事業は，日韓相互の文化財に関係する職員を派遣し，相互文化をより深く理解することを目的として実施されている。今年度で3回目を数え，これまでに済州島，慶尚南道で研修を行い，今年度（平成15年度）は全羅南道との派遣交流を実施した。概要は以下のとおりである。

（1）長崎県からの派遣

①　期　　間　　平成15年10月13日（月）～10月26日（日）

②　派遣職員　　長崎県教育庁学芸文化課　　主任文化財保護主事　村川　逸朗

　　長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所　主任文化財保護主事　福田　一志

③　調査研究テーマ　「旧石器時代から中世の日韓交流史の調査研究」

④　調査研究概要　　全羅南道内の日韓交流史関係遺跡・遺物の調査，博物館施設等の視察

調査研究（派遣）日程

日（曜）	調　査　場　所	所在地	対応者
13（月）	出国	光州広域市	鄭敬星氏
14（火）	全羅南道庁，全羅大学校付属博物館，月桂洞長鼓墳，新昌洞遺跡，光州民俗博物館，国立光州博物館	光州広域市	鄭敬星氏
15（水）	霊岩陶器文化センター，霊岩長川里住居址群，栄山湖観光農業博物館	霊岩郡	鄭敬星氏
	木浦大学校博物館	務安市	丁英姫氏
16（木）	湖南文化財研究院，カルトン遺跡，射徳遺跡	全羅北道	鄭敬星氏 金建洙氏
17（金）	明花洞長鼓墳	光州広域市	鄭敬星氏
	古幕川石橋，馬山里古墳群，チャンホン遺跡，大徳里高良古墳群，禮徳里古墳群，禮徳里新徳古墳群，龍月里支石墓群	咸平郡	
18（土）	三興里窯跡群，大口面青磁博物館，全羅兵営城跡	康津郡	鄭敬星氏 金建洙氏
20（月）	和順支石墓群，雲月里支石墓，雲住寺	和順郡	鄭敬星氏
	長東面北端里シンブク遺跡，長興傍村里支石墓	長興郡	
21（火）	順天大学付属博物館，順天倭城	順天市	鄭敬星氏
	鎮南館，五林洞支石墓群	麗水市	
	雲垈里陶窯址	高興郡	

日（曜）	調　査　場　所	所在地	対応者
22（水）	国立海洋博物館	木浦市	鄭敬星氏
	龍蔵山城，郡谷里貝塚	珍島郡	
	新芳里長鼓峰古墳	海南郡	
23（木）	全羅南道コインドル公園，竹内里遺跡，楽安邑城，仙厳寺	順天市	鄭敬星氏
	光州粉青沙器展示室	光州広域市	
24（金）	弥勒寺	全羅北道	鄭敬星氏
	潘南五良洞古墳群，五良洞窯跡	羅州市	
25（土）	光州粉青沙器展示室	光州広域市	鄭敬星氏 鄭基鎭氏
26（日）	帰国		

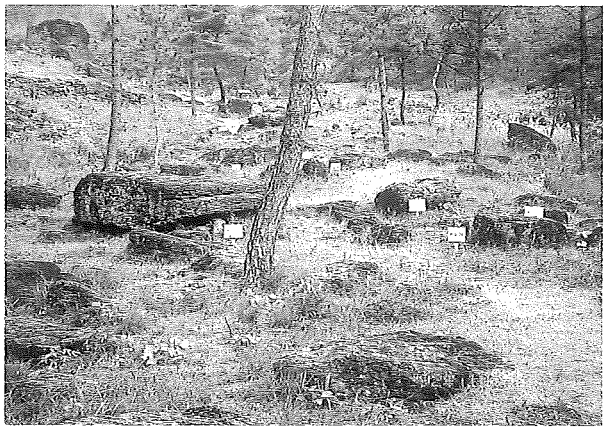
研修内容

全羅南道は，韓半島の南西側に位置し，韓国の中でも農業が盛んな所で，穀倉地帯としても有名である。もちろん海に面していることから漁業も盛んであり，韓国で最も料理がおいしい場所として知られている。歴史的にも日本との繋がりが非常に深い地域である。全羅南道には2週間滞在し，全羅南道庁の所在する光州広域市を拠点として，5市15郡で博物館の施設や遺跡整備の状況，発掘調査中の遺跡について研修を行った。

旧石器時代の遺跡として，長興郡，長東面北端里シンブク遺跡と和順市の竹内里遺跡の調査現場を見学した。シンブク遺跡は，後期旧石器時代の遺跡で，現在，朝鮮大学校が調査中だった。船底型の細石核，削器，石核，エンド・スクレイパーが出土し，全体的に石英の出土が多いことには驚かされた。また，剥片尖頭器とされる流紋岩（?）製の基部にプランティング加工したものがあった。竹内里遺跡は，剥片尖頭器が出土した遺跡として，日本でも注目された遺跡である。やはり石英が多く，土壌堆積状況は赤褐色のローム質土壌で北部九州と同じ印象を受けた。この2つの遺跡から出土する石器の石材は，石英や流紋岩が主体で黒耀石に見慣れた我々にとって，石材の違いからくる石器の様相の違いに驚いた。韓国では旧石器時代の研究は途についたばかりだが，日本の旧石器時代の様相と似たものもあることから，研究がさらに進展すれば，後期旧石器時代の地域差もはっきりしてくるものと思われる。

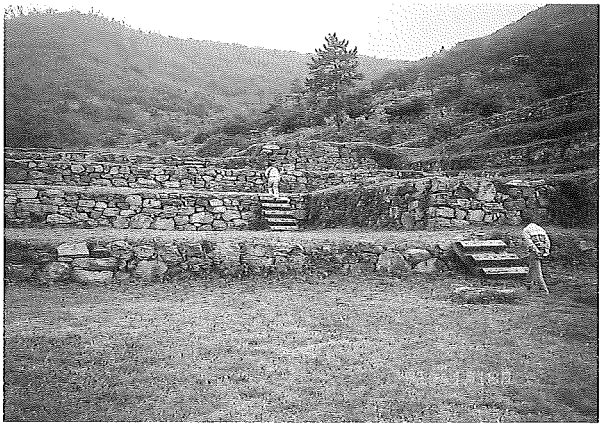
全羅南道は韓国でも一番支石墓が多い場所で，数万基あるといわれている。特にこの中でも世界遺産に登録された，和順市の支石墓群は圧巻だった。総数500基以上あり，かなり大型の支石墓が多く，見応え十分だった。一部は調査されていたが，遺物としては紡錘車・石庖丁・磨製石器などが出土しており，農耕との結びつきが非常に強い遺物に感心するとともに，日本への支石墓の伝播との関係の中で指摘されていることが頷ける状況だった。また，全羅南道は韓国でも陶磁器の窯が一番多い所として知られている。霊岩郡に所在する霊岩陶器文化センターは，韓国でも古い陶器の窯跡として知られ，鳩林窯を中心に幾つかの窯が存在する。鳩林窯は統一新羅時代の窯で灰釉・黒釉が早くから焼成され，韓国での施釉開始の窯として有名である。また，高麗青磁も古い一群が焼成されていることから，初期高麗青磁の研究には欠かせない窯跡の1つである。康津郡では，三興里窯跡群において，

初期高麗青磁の窯跡とその保存について研修した。遺跡は将来ダム建設のため沈んでしまうということから，窯跡を科学処理した後コンクリートで固め，100年の耐久力をもつようにしていた。窯の保存方法としては，試験段階だが，日本ではこのような保存方法例がないことから，大変興味深く見学ができた。初期高麗の窯周辺には，未だに陶磁器片が多量に散布しており，いわゆる輪高台の高麗青磁や，無釉陶器の破片が多く見かけられた。高麗青磁より新しい時期に出土する粉青沙器については，光州粉青沙器展示室において見学することができた。今回の研修で本場の粉青沙器の窯を実見することができたのは，大きな収穫だった。



和順支石墓遺

珍島では，元の攻撃に対抗するために築かれた龍蔵山城を視察した。この城は三別抄という軍隊が自国を護るために築城したもので，三別抄はこの城を4年間守り，その後，後退して済州島で全滅するという悲話がある。城は海に向けて階段状の石垣で構成され，後方を山で囲まれていた。順天市では小西行長築城の倭城を視察した。いわゆる壬申倭乱の産物だが，石垣の復元整備や公園としての整備が進められていた。韓国南部の倭城とは相違し，日本的な城郭建築だったことが意外だった。



龍蔵山城

今回の研修では，日本文化を考えるうえで，韓半島の西側経由の文化伝播の重要性を知ることができた。ややもすれば韓半島南部に目が行きがちだが，遼東半島からの流れ，ひいては中国本土を経路して，全羅南道が重要な位置にあることを再確認した。

（福　田）

（２）全羅南道職員の受け入れ

① 期　　間　　平成15年12月１日（月）～12月14日（日）

② 派遣職員　　全羅南道文化芸術課　　文化財専門委員　金　熹台

　　全羅南道文化芸術課　　学 芸 研 究 士　鄭　敬星

③ 調査研究テーマ　「長崎県指定文化財の管理制度の調査研究」

④ 調査研究概要　　長崎県内博物館・文化財施設・遺跡等の視察

調査研究（受け入れ）日程

日（曜）	行　　程	対 応 者
1（月）	長崎空港着	村　川
2（火）	県教育庁学芸文化課→出島和蘭商館跡→出島ワーフ→大浦天主堂→グラバー園→長崎くんち資料館→平和公園→原爆資料館→長崎市立博物館→原爆落下中心地→韓国人記念碑→崇福寺	村　川
3（水）	孔子廟→オランダ坂→南山手洋館群→旧英国領事館→西坂26聖人殉教地→長崎県立図書館→長崎市歴史民俗資料館→興福寺→眼鏡橋→聖福寺→福済寺	村　川
4（木）	島原森岳城→雲仙岳災害記念館→権現脇遺跡発掘調査現場→原山ドルメン→原城跡	村　川
5（金）	風観岳支石墓発掘調査現場→県教育庁学芸文化課久原資料室→大村公園・玖島城跡→本経寺→ひさご塚古墳→畑の原窯跡→波佐見町資料整理室・陶芸の館	村　川
6（土）	西海橋→ハウステンボス→平戸城資料館→平戸和蘭商館跡→松浦資料館	村　川
8（月）	呼子→印通寺→原の辻遺跡・展示館→安国寺跡・展示館→車出遺跡→カラカミ遺跡	福　田
9（火）	勝本城→双六古墳・鬼の窟古墳・掛木古墳→壱岐風土記の丘→国分寺跡→黒崎砲台跡	福　田
10（水）	郷ノ浦→厳原→長崎県立対馬歴史民俗資料館→小茂田元寇遺跡→矢立山古墳→豆酘・多久頭魂神社	福　田
11（金）	崔鎰鉉先生殉国碑→万松院・金石城耶→万関橋→黒瀬（新羅金銅仏）	福　田
12（土）	峰町歴史民俗資料館→朴提上殉国碑・朝鮮國譯官殉難碑→韓国展望台→塔の首遺跡→山辺遺跡発掘現場	福　田
13（日）	清水山城跡→比田勝港→釜山	福　田

三　県内の調査動向・研究活動（文献一覧）

1　［調　査］

2003年度の長崎県内における発掘届等の件数は219件で，去年とほぼ同じ数を示している。この内，発掘調査の届け（58条の２）は46件，学術調査は３件で，これもほぼ去年と同数の値を示している。発掘調査については，公共工事に伴う経費について，かなり厳しい要求がなされるなど，ここ数年の景気の沈滞を反映し予算の説明に追われることが多くなったように思える。県内の動向としては，壱岐に「埋蔵文化財センター」を設立することを決定したということが大きな話題である。本格的な整備を待つ「原の辻遺跡」をはじめ，数多くの遺跡がある壱岐に「埋蔵文化財センター」を誘致することにより，島民の文化財への理解を促進させるとともに，離島の活性化にも貢献することとなろう。また，原の辻遺跡の本格的な整備が平成17年度から予定されているが，このような動きに伴って島民の文化財に対する理解を深めてもらうために，県教委主催で「原の辻をもっと知ろう塾」が03年度から始まった。調査の成果をもとに，普及・啓発にも力を入れ島民一体となった「原の辻遺跡」整備を目指した地道な活動が始まっている。去年はじまった，対馬峰町の日韓共同の発掘調査は，今年は釜山広域市において古墳の調査がおこなわれ，日本からも数多くの調査者が参加した。

旧石器時代

島原半島国見町で「百花台遺跡」に隣接する「小ヶ倉Ａ遺跡」「小ヶ倉Ｂ遺跡」が発掘された。県教育委員会が地域拠点遺跡発掘調査を実施した「小ヶ倉Ｂ遺跡」は，後期旧石器時代の細石器の遺跡で，細石核・細石刃などがまとまって出土した。細石核は扁平な茶園型である。国見町教育委員会が調査した「小ヶ倉Ａ遺跡」は，縄文時代草創期の段階で，県内では３例目（洞穴以外では初例）の押引文土器と細石核が共伴している。細石核は，福井型といわゆる「野岳休場型」が出土している。

縄文時代

佐世保市の「門前遺跡」は，一般国道の建設工事に伴い平成12年度より発掘調査をおこなっている。15年度は11,300m^{2}を調査し，縄文時代早期末から古代・中世に至る遺物・遺構を確認している。遺跡は佐世保市の北西部に流れる相浦川下流域の標高８ｍの微高地上の沖積地に位置し，上流域には「泉福寺遺跡」などの洞窟遺跡が点在する。土層は，７層まで確認され，３層（近世）・４層（弥生時代）・５層（縄文時代晩期）・６層（縄文時代前期から後期）・７層（縄文時代早期）が確認されている。縄文時代早期の遺物として，塞ノ神式土器・石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧などの遺物が出土している。縄文時代前期の遺構・遺物として，集石３基・土壙５基が確認され，土器は，轟式土器・西唐津式土器（野口・阿多式）・曽畑式土器が成層状態で出土している。石器は早期の組成とほぼ似た状態であるが，特筆すべき遺物として大珠の出土が挙げられる。縄文時代後期では，坂ノ下式土器を伴う焼土壙が１基確認されており，その回りには剥片剥離をおこなったと思われる剥片の集中部が確認されている。縄文時代晩期では，住居状遺構１基・柱穴群・焼土・炭化物が入った土壙などが検

出されており，土器は黒川式併行期の精製土器・粗製土器が出土している。これらの土器の出土状況は良好であり，はっきりした上下関係をもっている。このことから，石器においてもその組成変化や技術的変化を捉えることもできるようである。

弥生時代

長崎市では，「深堀遺跡」の試掘調査で箱式石棺墓2基，土壙墓4基，小児用壺棺1基が検出されている。時代的には壺棺は弥生時代中期頃，箱式石棺は弥生から古墳時代にあたるとし，土壙墓には古代に属するものも含まれているという。

「深堀遺跡」は縄文時代前期から遺物が出土することが知られているが，今回の調査地点では弥生の墓域の範囲が確認され，周辺は古代まで断続的に使用されていたことが判明した。

壱岐では，国の特別史跡「原の辻遺跡」で県道の改良工事にともなう調査がおこなわれているが，弥生時代中期後葉の護岸遺構が検出された。護岸遺構は丘陵沿いに南下する旧河道沿いに約40mが検出され，以前検出された船着き場跡との関連が注目された。また，樹皮を敷いた遺構も検出され，敷粗朶工法をとった道の可能性がある遺構も検出されている。丘陵上では，芦辺町教委の調査で，銅矛の一部や「原の辻遺跡」初の鋳型などが出土し，「原の辻遺跡」でも青銅器生産をおこなっていたことを実証することとなった。ただし，鋳型は断片であり何の鋳型かを特定するには至っていない。銅矛は壱岐では「天ケ原遺跡」で3本出土したことがあったが，他では発見されていない。銅矛が居住域内から出土したことも大きな成果であろう。

縄文時代の項で報告した「門前遺跡」では，弥生時代の遺構・遺物も多量に出土している。遺構としては弥生時代後期の墓17基・溝1条，弥生時代早期から前期と思われる時期の木棺墓5基・住居状遺構1軒・掘立柱建物跡・河川跡・貝塚などが検出されている。木棺墓は，1号墓が蓋まで残存するほぼ完全な形態を保っており，2・3号墓は南北両側板と東側小口板が直立した状態で検出され，小口部分は板がずれないように杭で固定されている。木棺墓内からは副葬品は出土していない。遺跡からの出土遺物としては平鍬・又鍬・竪杵・横槌・把手付容器・透かし彫りのある板材などの木製品，袋状鉄斧・鉄鏃・銅鏃などの金属製品，石庖丁，勾玉・ガラス玉などの装飾品なども出土しており，近隣に有力な勢力の集落が存在する可能性をもっている。

島原半島では有家町の「下木場遺跡」で弥生時代後期の溝2条の他，ピットなどが検出されている。遺物数としては少ないが，報告の中で，有明海西岸地域における弥生時代後期の土器（甕・高坏）の型式分類・型式変化をまとめた意義は大きい。本県下における弥生土器の型式についての論攷は少なく，島原半島での弥生後期編年における指標となろう。

古墳時代

壱岐は後期古墳が多いところとして知られている。中でも国分地区と呼ばれる島の中央部は古墳が密集している地域で，巨石墳とともに小型の円墳が集中する地域である。平成10年度から町内遺跡内容確認調査事業にともなって古墳群の状況調査をおこなっている。今まで調査をおこなった古墳は，

「山ノ神5号墳」「百田頭2・5・6・7号墳」「釜蓋5・6号墳」で，03年度は「釜蓋2・3号墳」「百田頭4・7号墳」の調査をおこなっている。調査者によると，「百田頭古墳」群や「山ノ神5号墳」周辺は6世紀中頃から7世紀中頃までに築造され，石室は単室両袖型横穴式石室から複式両袖型横穴式石室や複式片袖型横穴式石室に変化したとしている。その中で複室両袖型横穴式石室の「鬼ノ窟古墳」や「兵瀬古墳」のような巨石墳が現れ，これに刺激されたように同じ構造をもつ横穴式石室が「釜蓋古墳」等で出現したとの見解を示している。今まで調査した古墳の編年を，「百田頭3・4・7号墳」「山之神5号墳」を6世紀中葉，「百田頭6号墳」「釜蓋2号墳」を6世紀後半，「百田頭2号墳」「釜蓋5号墳」を7世紀前半，「釜蓋6号墳」が7世紀中頃から8世紀初頭には終焉を迎えたとの編年をたてている。

古　代

島原半島国見町で，「十園遺跡」の調査がおこなわれている。遺跡は標高25m～30mを測る丘陵上に位置し，昨年度までの調査で旧石器時代から中世までの複合遺跡として知られていた。この中でも特に，弥生の環濠集落が発見されたことで注目を集めた遺跡である。今回の調査では，8世紀代の掘立柱建物群が5棟検出されている。建物はいずれの建物も同じ方向に規則的に並んで検出されており，周りに溝も検出されている。この建物群については，肥前国高来郡「郡衙」に関連する施設として捉えられている。その根拠として周辺の遺跡から墨書土器・刻書土器・すずりなどが出土するとともに，「郡寺」と考えられる「五万長者遺跡」が近接するなどの条件があることなどを挙げている。『肥前国風土記』に記された長崎県本土部の3郡の中で初めてその場所が確認されたことは特筆に値する。

対馬市美津島町では，「金田城」の調査がおこなわれ，門跡が確認されている。確認された門跡は，標高90m付近に位置し，陸路から最初に城内に入る部分とされ，これまで未発見だった陸からも通行可能な城門として捉えられている。

中　世

外海町で「神浦城」の発掘調査がおこなわれた。城は14世紀の後半に武蔵の国から移り住んだ大串小次郎俊長（神浦氏）が築いた山城とされ，16世紀には大村純忠によって破棄されたといわれている。調査により，岩盤をくり抜いた柱穴・かまど跡などが検出されている。遺物としては，青磁片などが出土している。

近　世

対馬市厳原町において，「今屋敷家老屋敷跡」の調査がなされた。この地は，対馬藩家老・古川図書の屋敷地に相当し，文化八年の朝鮮通信使の易地聘礼の際に井上美濃守の宿館として使用されたと言われる。調査では，長屋門の礎石跡や石垣側溝などの家老屋敷に伴う遺構の他，屋敷成立以前の遺物等も確認されている。昨年同様「結石山城跡」の調査がおこなわれている。昨年の調査では，山頂部で礎石建物跡・二ノ曲輪・三ノ曲輪が確認され，それぞれ石垣も検出されている。03年度の調査で

さらに調査した結果，全部で四つの曲輪からなり，いずれも馬の背状の丘陵状尾根をカットして成形したものと判断された。礎石建物跡は山頂で確認され，梁行２間，桁行５間の礎石建物跡で，柱間は約1.8mを測る規模の大きな建物である。遺物としては，備前焼の擂り鉢が出土しており，時期的には16世紀後半と見られる。この他ピットも確認されている。この状況に対し検討したところ，山城で礎石建物をもつ例は九州では２例目で，礎石間の距離は江戸間であるということ，石垣については穴太積みで対馬厳原町の「清水山城」のものと同じで時期的には桃山期とした。このことから，「結石山城」は文禄慶長の役に関わる城であるとの見方を強めている。平戸市では「平戸阿蘭陀商館復元整備事業」に伴って調査がおこなわれている。

その他

昨年度の論文の中でとくに注目されるのは『平戸市史研究』内所収の萩原論文『日本列島最古の旧石器』である。論文の中で萩原は，日本各地で検出されたブラックバンドを鍵層として捉え，その下位から発見された石器群を比較検討し，大まかな編年を組み立てている。比較検討の事例については，韓国・中国にまでもとめ，石器の製作技術を相対的に捉えている。捏造事件以後，日本の前・中期旧石器時代の研究は，33,000年前の段階にまで後退したと言われる中で，萩原がおこなった全国の遺跡の再整理は，前・中期旧石器時代研究の指針となるであろう。

長崎県教育委員会では，「原の辻大学講座Ｄｒ．ハルの原の辻をもっと知ろう塾」を壱岐で開催している。この講座は，壱岐島民を対象に遺跡の大切さや，考古学の楽しみかたを学ぶため，外部講師を招いて今年から開催している。年５回の講演と，１回の発掘体験などを企画しており，常に100人を越す聴衆で溢れている。壱岐に「埋蔵文化財センター」が建設予定となっているが，ボランティア養成も期待される。長崎県考古学会は，大会と総会を催した。総会では「小ヶ倉Ａ遺跡」「門前遺跡」「十園遺跡」「尾和谷城跡」の概要報告がなされた。時代的にも変化に富んだ報告であるとともに，内容的にも充実したものであった。大会では，「海人と海道」― 新生対馬の交流 ―という主題のもと，シンポジウムが開かれた。内容的には，「弥生時代の対馬の交流」・「14・15世紀の対馬の交流」についてのパネルディスカッションがおこなわれ活発な意見交換がなされた。記念講演として「韓国と対馬の歴史」という演題で，鄭永鎬氏により講演があった。鄭氏は，長年の対馬の中世の仏像調査から，何故仏像が韓国から対馬に招来するのかについてに焦点をおいて講演をされた。

（福　田）

2　［文献一覧］

報告書

No.	書　　名	編著者名	発行機関
1	長崎県埋蔵文化財調査年報11	荒井春房	長崎県教育委員会
2	長崎奉行所（立山役所）跡・炉粕町遺跡	川口洋平・柚木亜貴子	長崎県教育委員会
3	地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書	川道　寛・古門雅高	長崎県教育委員会
4	今屋敷家老屋敷跡	本田秀樹・樋口健太郎	長崎県教育委員会
5	下木場遺跡	古門雅高・山田英明	長崎県教育委員会
6	原の辻遺跡	福田一志・小玉友裕	長崎県教育委員会
7	原の辻遺跡	中尾篤志・小玉友裕	長崎県教育委員会
8	万才町遺跡	扇浦正義	長崎市教育委員会
9	尾和谷城跡	秀島貞康・古賀　力・橋本幸男・大石一久	諫早市教育委員会
10	富の原遺跡	松尾尚哉	大村市教育委員会
11	黒丸遺跡ほか発掘調査概報Vol. 4	大野安生・松川憲毅・松尾尚哉	大村市教育委員会
12	松浦市内遺跡確認調査（5）	中田敦之	松浦市教育委員会
13	市内遺跡確認調査報告書	塩塚浩一	平戸市教育委員会
14	井桶堤塘	正林　護	飯盛町教育委員会
15	十園遺跡	竹中哲朗・辻田直人	国見町教育委員会
16	原城跡	松本慎二	南有馬町教育委員会
17	鷹島海底遺跡X	山下泰子・林田憲三	鷹島町教育委員会
18	特別史跡　原の辻遺跡	松見裕二	芦辺町教育委員会
19	釜蓋古墳群・百田頭古墳群	山口　優	芦辺町教育委員会
20	原の辻遺跡	河合雄吉	石田町教育委員会
21	石田町の古墳　原の辻遺跡	河合雄吉・喜多　正	石田町教育委員会
22	志賀窯跡	尾上博一・下川達彌	厳原町教育委員会

論　文

1．宮崎貴夫「長崎県壱岐出土の弥生時代中国銭貨」『出土銭貨』第20号

2．中尾篤志「「壱岐国」における生産基盤 ― 原の辻遺跡出土農耕関連遺物の検討を通して ―」『考古論集』― 河瀬正利先生退官記念事業会編 ―

3．萩原博文・塩塚浩一「長崎県入口遺跡出土の旧石器初頭石器群」『考古学ジャーナル』No.511（ニューサイエンス社）

4．西海考古同人会編　『西海考古第５号』

・中島恒次郎「肥前国西部の食器」― 肥前郡・松浦郡 ―

・竹中哲朗「大村湾・橘湾沿岸の古墳・箱式石棺の検討」
・東　貴之「滑石製石鍋製作所跡について」―駄馬・目一つ坊石鍋製作所跡を中心に―
・寺田正剛「佐世保市相浦地区武辺城築城に関するいくつかの仮説について」
・宮下雅史「花十字紋瓦考」
・辻田直人・竹中哲朗「長崎県国見町における縄文時代草創期遺跡の調査」
・大野安夫・松尾尚哉「大村市内の中世城郭調査・城の尾城跡」―畝状空掘並びに在地系石垣を備えた山城―
・井立　尚「千里ケ浜遺跡出土の隆帯を施した曽畑式土器」
・島原高等学校郷土部「島原半島における石棺二例」
・竹中哲朗「有明町・一野古墳群出土土器」,「国見町専正寺遺跡出土の陶硯」
・東　貴之「滑石製品の再利用」

5．辻田直人「長崎県における縄文時代のおとし穴状遺構」『九州における縄文時代のおとし穴状遺構』(九州縄文研究会・南九州縄文研究会)

6．平戸市史編さん委員会『平戸市史研究』―特集号：入口遺跡・日本最古の旧石器と自然科学―
・萩原博文「日本列島最古の旧石器」
・塩塚浩一「入口遺跡A・C地点発掘調査の概要」,「入口遺跡B地区（741地区）発掘調査報告」
・川道　寛「福井洞穴駐車場部分の新資料」
・早田　勉「九州地方北西部平戸島とその周辺の考古遺跡におけるテフラ分析」
―編年研究のための基礎的資料の収集―
・杉山真二「平戸市入口遺跡における植物珪酸体分析」
・長友恒人・下岡順直「入口遺跡のIRSL年代測定」

7．立平　進「海を旅する人たち3・徐福」『長崎国際大学学術論叢』第4巻

8．立平　進「九州西北部の原始古代における捕鯨について」『第2回日本伝統捕鯨地域サミット開催の記録』(財団法人日本捕鯨研究所)

9．宮下雅史「長崎のキリシタン遺跡」―近年の発掘調査成果から―『長崎文化』第6号

その他

1．長崎県教育委員会『平成15年度・原の辻遺跡大学講座Dr．ハルの原の辻をもっと知ろう塾講演記録誌』―辻誠一郎「一支國人は焼酎を飲んだか？」沈奉謹「韓国から見た原の辻遺跡」金関恕「人面石大いに語る」高倉洋彰「一支國の交易」小田富士雄「なぜ壱岐に巨大古墳が多いのか？」

2．長崎県考古学会『長崎県考古学会報』№.11

3．川道　寛『日本考古学年報55』(日本考古学協会)

（福　田）

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧

集	報　告　書　名	発行年
1	長崎県遺跡地名表（埋蔵文化財包蔵地一覧）	1962
2	五島遺跡調査報告	1964
3	民俗資料調査報告書	
4	福井洞穴調査報告（図録編）	1966
5	深堀遺跡	
6	男女群島特別調査報告	1968
7	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968
8	対馬 ― 豊玉村佐保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告	1969
9	宮下遺跡調査報告（解説編）	
10	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970
11	有明海沿岸地区の民俗	1972
12	長崎県の民家（前編・後編）	1972
13	対馬西岸阿連・志多留の民俗	1972
14	里田原遺跡（図録）	
15	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974
16	対馬の文化財	
17	対馬 ― 浅茅湾とその周辺の考古学調査 ―	1974
18	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974
19	壱岐の文化財	
20	対馬の遺跡	1975
21	里田原遺跡	1975
22	下五島の文化財	
23	長崎県民俗地図	1976
24	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告第１集（図録編）	1975
25	里田原遺跡	1976
26	原の辻遺跡	1976
27	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977
28	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977
29	長崎県のカトリック教会	1977
30	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977
31	原の辻遺跡Ⅱ ― 長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡 ―	1977
32	里田原遺跡	1977
33	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977
34	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	

集	報　告　書　名	発行年
35	長崎県埋蔵文化財調査集報	1978
36	世知原町開作免の民俗	1978
37	原の辻遺跡Ⅲ― 長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡 ―	1978
38	里田原遺跡	1978
39	日蘭関係資料	1979
40	平戸・上五島地区の文化財	1979
40-2	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979
41	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979
42	長崎県の海女（海士）	1979
43	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979
44	松浦市とその周辺地区の文化財	1979
45	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979
46	大村湾の漁労習俗	1980
47	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980
48	キリシタン関係資料	1980
49	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979
50	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980
51	串島遺跡	1980
52	ケイマンゴー遺跡	1980
52-a	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981
53	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981
54	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981
55	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981
56	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982
57	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982
58	堂崎遺跡 ― 長崎県有家町所在の海中干潟遺跡 ―	1982
59	島原・南高の文化財	1982
60	針尾人崎遺跡 ― 佐世保市針尾中町所在 ―	1982
61	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982
62	長崎・西彼の文化財	1983
63	橘湾の漁労習俗	1983
64	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983
65	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983
66	長崎県文化財調査報告書埋蔵文化財Ⅵ	1983

集	報　告　書　名	発行年
67	長崎県文化財調査報告書埋蔵文化財Ⅶ	1984
68	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984
69	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984
70	長崎県の農具調査（前編）	1985
71	名切遺跡	1985
72	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985
73	西ノ角遺跡	1985
74	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985
75	長崎県埋蔵文化財集報Ⅷ	1985
76	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985
77	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985
78	百花台遺跡	1985
79	長崎の近世社寺築　近世社寺建設緊急調査報告書	1986
80	長崎県の農具調査（後編）	1986
81	上原遺跡	1986
82	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986
83	殿崎遺跡	1986
84	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986
85	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告Ⅲ	1986
86	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1986
87	長崎県遺跡地図	1987
88	長崎県の民謡	1987
89	温泉岳　保存管理計画策定書	1988
90	中道壇遺跡	1988
91	長崎県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ	1988
92	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988
93	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989
94	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989
95	魚洗川Ｂ遺跡 ― 全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 ―	1990
96	長崎県の諸職調査	1990
97	長崎県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ	1990
98	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990
99	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991
100	礫石原遺跡 ― 県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 ―	1991

集	報　告　書　名	発行年
101	長崎県埋蔵文化財調査報告書ＸⅣ	1991
102	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991
103	長崎県天然記念物実態調査報告書 ― 対馬を除く ―	1991
104	長崎県埋蔵文化財調査集報ＸＶ	1992
105	上大垣遺跡	1992
106	県内古墳詳細分布調査報告書	1992
107	大陸渡来文物緊急調査報告	1992
108	長崎県埋蔵文化財調査集報ＸⅥ	1993
109	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993
110	長崎県遺跡地図 ― 長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区 ―	1994
111	長崎県遺跡地図 ― 島原市・南高来郡地区 ―	1994
112	長崎県遺跡地図 ― 壱岐地区 ―	1994
113	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994
114	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994
115	中木場遺跡 ― 水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書 ―	1994
116	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994
117	長崎県遺跡地図 ― 福江市・南松浦郡地区 ―	1995
118	長崎県遺跡地図 ― 対馬地区 ―	1995
119	長崎県遺跡地図 ― 佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区 ―	1995
120	長崎県の民俗芸能 ― 長崎県民俗芸能緊急調査報告書 ―	1995
121	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995
122	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995
123	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995
124	原の辻遺跡	1995
125	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996
126	伊木力遺跡Ⅰ	1996
127	黒丸遺跡Ⅰ ― 都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書 ―	1996
128	中木場遺跡Ⅱ ― 水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査 ―	1996
129	中木場遺跡Ⅲ ― 水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査 ―	1996
130	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996
131	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997
132	黒丸遺跡Ⅱ	1997
133	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997
134	伊木力遺跡Ⅱ	1997

集	報　告　書　名	発行年
135	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997
136	稗田原遺跡Ⅰ	1997
137	広平遺跡	1997
138	桟原城遺跡	1997
139	石田城跡	1997
140	長崎県の近代化遺産 ― 長崎県近代化遺産総合調査報告書 ―	1998
141	大浜遺跡	1998
142	蒲河遺跡	1998
143	沖城跡	1998
144	桜町遺跡	1998
145	稗田原遺跡Ⅱ	1998
146	長崎奉行所（立山役所）跡	1998
147	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998
148	長崎県埋蔵文化財調査年報 5	1998
149	馬乗石遺跡	1998
150	長崎県埋蔵文化財調査年報 6	1999
151	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999
152	稗田原遺跡Ⅲ	1999
153	長崎県のカクレキリシタン ― 長崎県のカクレキリシタン習俗調査事業報告書 ―	1999
154	長崎街道 ― 長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書 ―	2000
155	長崎県埋蔵文化財調査年報 7	2000
156	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000
157	稗田原遺跡Ⅳ	2000
158	長崎県埋蔵文化財調査年報 8	2001
159	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001
160	平野遺跡	2001
161	稗田原遺跡Ⅴ	2001
162	栄町遺跡	2001
163	石田城跡Ⅱ	2001
164	長崎県埋蔵文化財調査年報 9	2002
165	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅴ	2002
166	森岳城跡	2002
167	玖島城跡	2002
168	千里ヶ浜遺跡	2002

集	報　告　書　名	発行年
169	歴史の道整備活用推進事業　長崎街道整備活用計画報告書	2002
170	長崎県の祭り・行事調査報告書	2002
171	長崎県埋蔵文化財調査年報10	2003
172	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ	2003
173	森岳城跡Ⅱ	2003
174	供養川遺跡	2003
175	長崎県埋蔵文化財調査年報11	2004
176	地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅰ	2004
177	長崎奉行所（立山役所）跡 ― 歴史文化博物館（仮称）建設に伴う発掘調査報告書 ―	2004
178	今屋敷家老屋敷跡	2004
179	下木場遺跡	2004
180	日蘭関係資料Ⅱ～県外編～	2004
181	長崎県の近代和風建築 ― 長崎県近代和風建築総合調査報告書 ―	2004

五　事業別発掘調査届出件数及び県市町村別埋蔵文化財職員数の推移

○　事業別発掘調査届出件数の推移

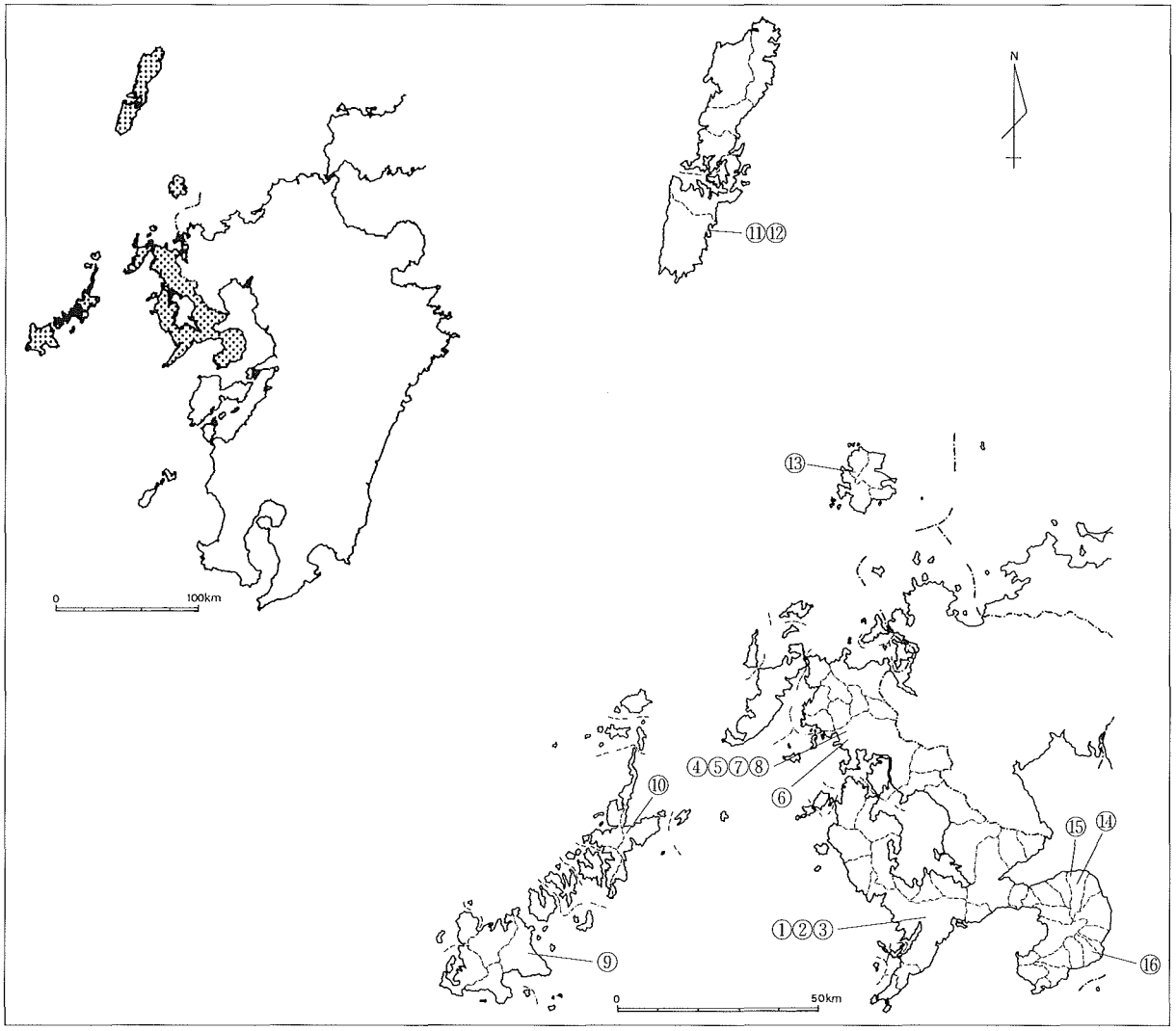
		平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
緊急調査	道路	12	15	8	7	6	10
	河川	1	2	1	0	0	1
	学校	4	4	1	1	1	1
	住宅・宅地造成	10	28	13	3	3	5
	工場	0	1	3	0	0	0
	店舗等	2	0	5	0	0	0
	その他建物	3	5	13	2	4	1
	土地区画整理	3	0	0	0	0	0
	公園造成	1	2	1	0	1	1
	観光開発	0	1	1	0	0	0
	ガス等	1	0	2	3	2	2
	農業関係	23	34	21	9	4	6
	その他開発	14	14	8	2	2	3
	自然崩壊	1	0	0	0	0	0
	遺跡地図作製等	0	2	0	0	0	0
	保存目的	0	0	6	13	14	18
	遺跡整備	2	1	0	2	2	0
学術・研究		2	6	7	8	6	2
合計		79	115	90	50	45	50

○　県市町村別埋蔵文化財担当職員数の推移

（　）は嘱託数

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
県	17（ 3）	16（ 5）	17（ 7）	16（ 5）	17（ 5）	18（ 5）
市町村	33（11）	36（ 6）	42（ 4）	43（ 5）	47（10）	43（12）

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成15年度長崎県内発掘調査箇所

	遺跡名	所在地		遺跡名	所在地
①	長崎奉行所跡	長崎市	②	岩原目付屋敷跡	長崎市
③	炉粕町遺跡	長崎市	④	門前遺跡	佐世保市
⑤	小野F遺跡	佐世保市	⑥	九州文化学園構内遺跡	佐世保市
⑦	竹辺C遺跡	佐世保市	⑧	竹辺D遺跡	佐世保市
⑨	橘遺跡	福江市	⑩	七目遺跡	有川町
⑪	雷命神社下遺跡	厳原町	⑫	今屋敷家老屋敷跡	厳原町
⑬	カラカミ遺跡	勝本町	⑭	魚洗川B遺跡	国見町
⑮	上篠原遺跡	国見町	⑯	下木場遺跡	有家町

①長崎奉行所（立山役所）跡

所 在 地	長崎市立山１丁目	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	歴史文化博物館建設工事	調査面積	5,600m^2
調査期間	平成14年７月８日～平成15年６月30日	調査区分	本調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，工事

立　地

本遺跡は，長崎市街の北東部に位置する立山にある。付近は標高336mの金比羅山の山裾にあたり，延宝元年（1673）長崎奉行所立山役所が置かれた。標高は20～30mで，明治以降も学校や官庁など拠点的な場所として使用された。昭和40年には長崎県立美術博物館が開館し，平成14年まで文化発信の中心的な場所として機能していた。

長崎奉行所跡位置図〔長崎東北部・東南部〕（S＝1／25,000）

調　査

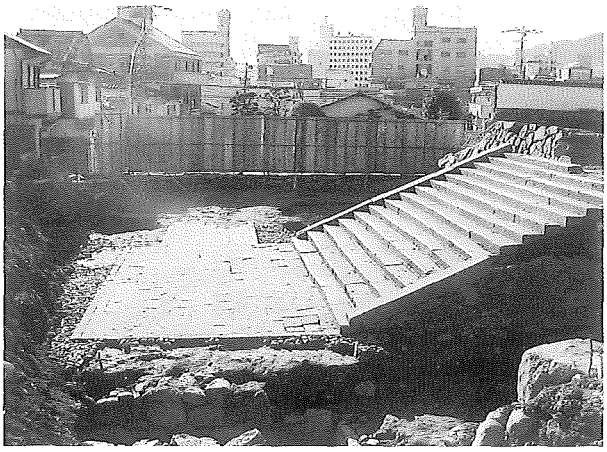
調査は，平成14年４月から行った範囲確認調査の結果を受け，要調査区域について実施したものである。調査によって長崎奉行所時代が２時期と奉行所以前の生活痕跡を確認することができた。

長崎奉行所の後期の遺構は，正門階段や石垣が絵図面通りに検出された。また敷地の東側において幅約３ｍ，深さ約２ｍの南北に走る濠が確認され，18世紀中頃から後半を主体とする大量の遺物が出土した。長崎奉行所初期の遺構としては，長屋の建物跡，石垣，石組溝などが確認され，玉砂利敷きの生活面も検出された。奉行所以前の遺構としては，石垣・溝・井戸・道路状遺構などが確認され，16世紀末から17世紀初め頃の土器・陶磁器のほか，キリシタンとの関連を示す花十字瓦やロザリオなどが出土している。

まとめ

長崎奉行所は，文献史料から享保二年（1717）に大規模な改造を行ったことがわかるが，調査によって，土層からこれを裏付けることができた。調査は平成16年度にも実施しており，全体像の解明が期待される。

【調査担当：川口・柚木，文責：川口】



正門階段検出状況

②岩原目付屋敷跡（いわはらめつけやしき）

所 在 地	長崎市立山１丁目１番16号ほか	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	歴史文化博物館建設工事	調査面積	3,050m^2
調査期間	平成15年７月１日～平成15年12月25日	調査区分	本調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，工事

立　地

本遺跡は，長崎市街の北東部に位置する立山にある。付近は標高336mの金比羅山の山裾にあたり，正徳五年（1715）に岩原郷に開設された。南側は長崎奉行所立山役所と接しており，奉行の監視や公事の立ち会いなどが職務であった。幕末には，敷地内に英語学校が置かれていた。戦後は，長崎ユースホステルがおかれていたが，博物館計画に伴い平成15年に閉じた。

岩原目付屋敷跡位置図〔長崎東北部・東南部〕
（S＝1／25,000）

調　査

調査は，平成14年４月から行った範囲確認調査の結果を受け，要調査区域について実施したものである。調査の結果，上層において絵図面に一致する柱穴などが確認されたほか，下層では17世紀後半から18世紀初頭にかけての基壇を伴う建物跡や石組溝などが確認された。また，下層においては，16世紀末から17世紀前半にかけての地下式の石組み遺構が確認されたほか，花十字瓦やメダイが出土している。調査によって敷地の旧地形は傾斜地であり，目付屋敷設置に伴って石垣を巡らせて平坦地としたことが判明した。

まとめ

隣接する長崎奉行所の調査では，享保年間を境に二時期の変遷が捉えられているが，今回の目付屋敷の調査においても，下層の遺構が確認されている。

これらは，文献史料にみる目付屋敷開設の記録より古くなることから，奉行所敷地の変遷など多角的な視点で検討していく必要がある。

【調査担当：川口・柚木，文責：川口】

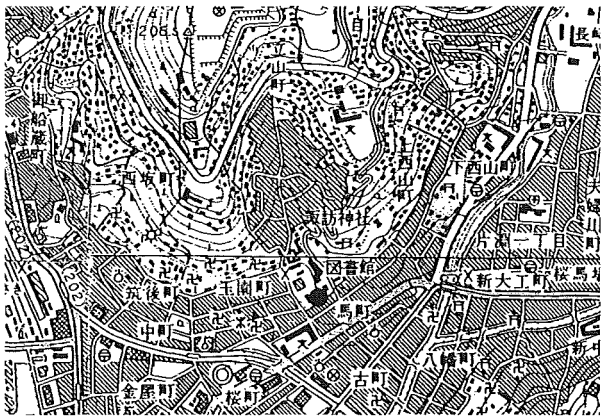
建物跡検出状況

③炉粕町（ろかすまち）遺跡

所 在 地	長崎市炉粕町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	歴史文化博物館建設工事	調査面積	550m²
調査期間	平成15年４月１日～６月30日	調査区分	本調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，工事

立　地

本遺跡は，長崎市街の北東部に位置する炉粕町にある。付近は標高336m の金比羅山の山裾にあたり，北側は江戸時代に置かれていた長崎奉行所立山役所が接している。標高は20m 前後で立山役所からは崖によって段差がついている。町は東西に細長く，長崎外町のひとつでその町名は，銀の灰吹きに伴うルカスにちなむともいう。



炉粕町遺跡位置図〔長崎東北部・東南部〕（S＝１／25,000）

調　査

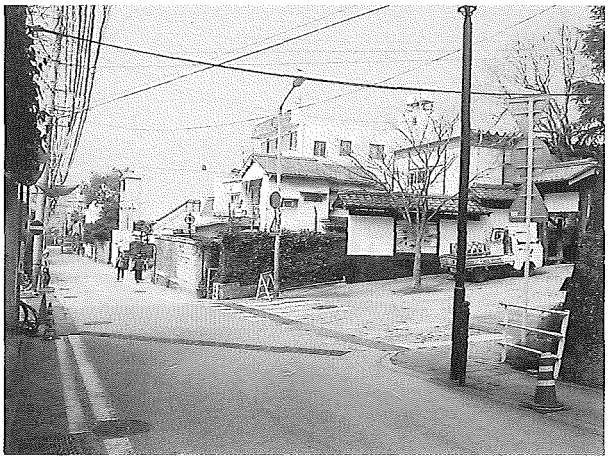
調査は，平成14年７月から行った長崎奉行所立山役所跡の期間中に実施した試掘調査の結果により，遺跡の発見を届けて工事予定区域に実施したものである。

近世の遺物包含層は，近代の掘削によって一部を除き残存せず，各時期の遺構の下部が地山上で確認された。時期の新しいものから内容を概観すると，まず18～19世紀のものと推測される胞衣壺が５基確認された。つぎに，調査区北側の立山役所の境付近で18世紀初頭に埋められたと推測される幅約５m，深さ約1.5m の東西に走る溝が確認され，木製品を含む大量の遺物が出土した。さらに，調査区の南側において16世紀末から17世紀前半にかけてのものと推測される炉跡が２基確認された。炉跡の周辺からは，坩堝および精錬に伴う２次生成物が出土している。

まとめ

立山役所との境で確認された溝は，文献記録から享保二年（1717）に行われた大規模な役所の改造の際に埋められた可能性がある。炉跡は，炉粕町の町名との関連が興味深い。分析では銅の精錬を行っていたという結果が出ている。

【調査担当：川口・柚木，文責：川口】



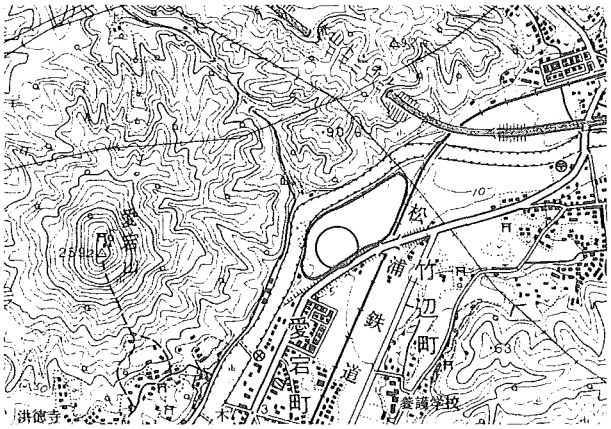
調査地遠景

④門前（もんぜん）遺跡

所 在 地	佐世保市愛宕町・中里町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	調査面積	11,300m^2
調査期間	平成15年５月12日～平成16年３月31日	調査区分	本調査
報 告 書	平成17・19年度刊行予定	処　　置	調査後工事

立　地

遺跡は，佐世保市北西部の相浦川中流域の標高８ｍの沖積地上に立地している。遺跡北西側の河川対岸には佐世保砂岩の露頭が多く見られ，岩陰などが形成された要素のひとつとなっている。近隣には四反田遺跡や下本山岩陰遺跡などの主要な遺跡が多数散在し，相浦川流域が古くから生活の場として有効に利用されてきた痕跡を残している。遺跡から相浦川の河口までの距離は約2.5km と外海と非常に近く，中世では朝鮮半島との貿易の要地として利用されており，河口西側の沿岸部では江戸時代以降水銀が採掘されたとの記録も残っている。



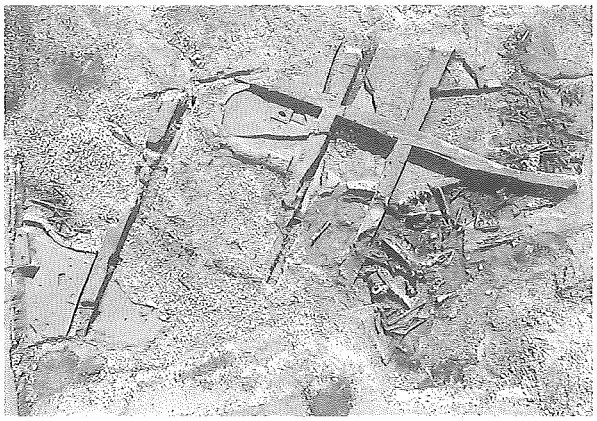
門前遺跡位置図［佐世保北部］（S＝１／25,000）

調　査

平成15年度の調査は，１層の耕作土と２層の平成５年度圃場整備工事の時の整地層，河川内堆積礫層を重機で掘削した後，座標杭に合わせ，100m の大グリッドと20m の中グリッドを設定し番号を付し，調査を開始した。その結果，縄文時代早期，前期，後期，晩期，弥生時代前期から後期，古代末から中世，近世の遺構や遺物が確認された。

縄文時代の主な遺構は，前期の焼け石を伴う集石と土壙，後期の坂ノ下式土器を伴う焼土土壙，晩期の住居状遺構・柱穴群・焼土炭化物土壙・河川跡などが検出されている。また遺物では，刻みを施した粘土紐を口縁部に有する早期土器，轟式土器・西唐津式土器（野口・阿多式）・曽畑式土器などの前期の土器，並木式土器・坂ノ下式土器・黒川式土器の中期から晩期までの土器類，石鏃・石匙・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・磨石・石皿などの早期から晩期までの石器類が出土した。

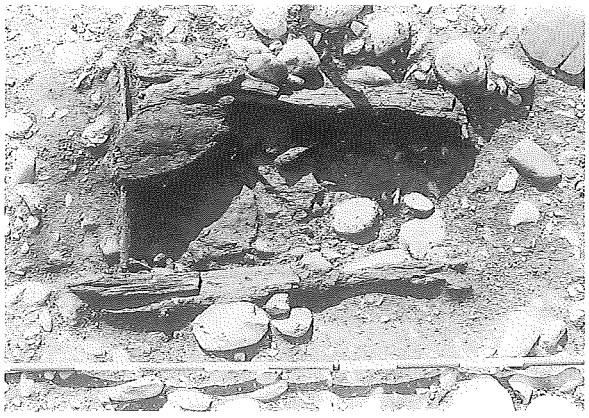
弥生時代の主な遺構は，前年度から継続して調査した墓域と溝，弥生時代早期から前期と思われる木棺墓，住居跡，掘立柱建物跡，河川跡，貝塚が検出されている。


弥生時代後期　河川跡

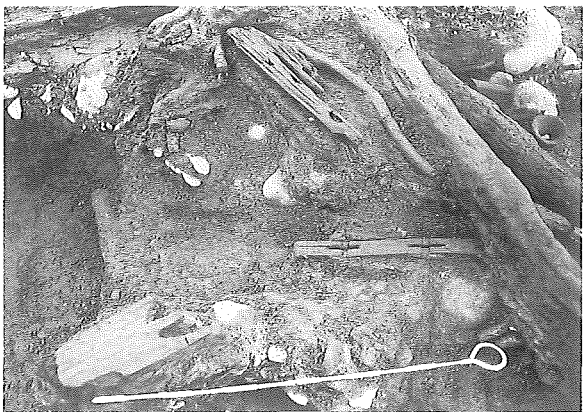
木棺墓は５基確認され，１号墓は蓋まで残存するほぼ完全な形態で，両側板と東側小口板が直立し

た状態で検出された。また２・３号墓は南北両側板と西側小口板の板材を方形にならべた状態で検出され，小口部分は板材がずれないように杭で固定されている。

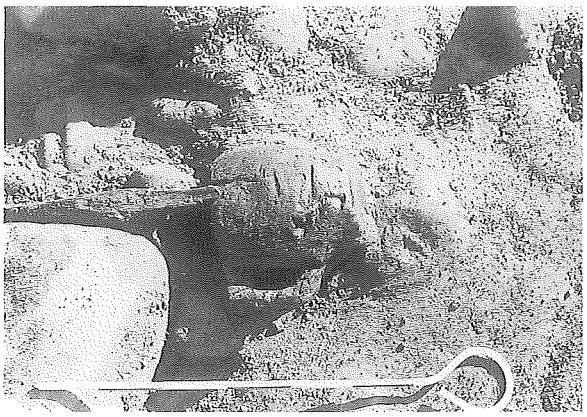
１号木棺墓



３号木棺墓



装飾板・案の部材　出土状況



ジョッキ形容器出土状況

遺物としては，弥生時代後期の河川から多量の土器とともに平鍬・又鍬・竪杵・横槌などの農具類，取手付ジョッキ形容器・案・杓子などの容器類，透かしのある装飾板，組み合わせ式案（机）の部材など多様な木製品が出土している。またその周辺からは袋状鉄斧や鉄鏃，銅鏃，石庖丁，勾玉，ガラス玉などが出土しており，近隣に有力な勢力の集落が存在する可能性がある。

中世の遺構としては，平安時代末期から鎌倉時代の河川跡やそれに伴う石列遺構などが検出された。また遺物としては，奈良時代の須恵器坏，平安時代末期から鎌倉時代にかけての土師器・黒色土器・瓦器・須恵器などの国産土器，白磁・越州系青磁・初期高麗青磁などの輸入陶磁器，石鍋，近世陶磁器類など出土しており，長期的に人々が生活した様相が窺われる。

まとめ

今年度の調査では弥生時代の木棺墓や多種の木製品などが出土し，鉄製工具なども出土していることから，高度な加工技術があったことが推測される。また，農耕具や青銅器・鉄器などが出土することから，水田遺構などの生産遺構や住居跡などの集落跡が今後近隣から検出される可能性がある。

また，縄文時代の早期から前期にかけての連続した遺物包含層が確認されており，土器の形態や文様の変遷などを見ることができる貴重な成果である。

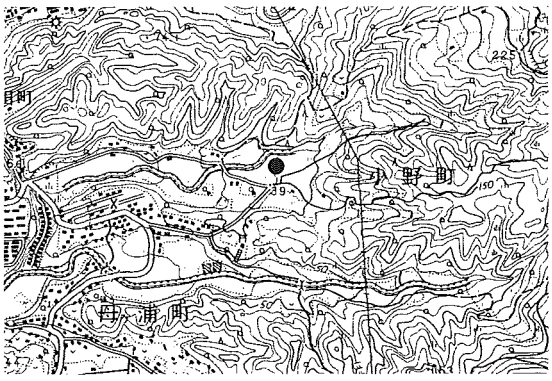
【調査担当：副島・寺田・石橋・栗山・北原・平岡，文責：寺田】

⑤小野（おの）F遺跡

所在地	佐世保市小野町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	調査面積	700m²
調査期間	平成15年5月12日～7月12日	調査区分	本調査
報告書	平成16年度刊行予定	処置	調査後工事

立地

遺跡は，将冠岳から西方へのびる舌状の小丘陵先端部に位置し，標高はおよそ40メートルである。遺跡の南北にも西方へのびる丘陵があり，両丘陵からはさまれた形となっている。遺跡の北側を丘陵に沿って西へ走る其の原川は将冠岳に源を発し，下流で小野川と合流し流れを南西に変えて相浦川河口に到達する。



小野F遺跡位置図［佐世保北部］（S＝1／25,000）

また，其の原川は，遺跡の北東100メートルのところまでは急勾配で谷を流れ，それ以降勾配も緩やかになり，谷も広がりを見せる。遺跡は，其の原川が狭跡谷から抜け出た扇状地に立地しているともいえる。

調査

調査は，平成13年に試掘調査をした地点を中心に，重機で表土を掘削した後，座標杭に合わせ南北を主軸とする8メートル四方のグリッドを設定した後，北から南へA・B・C・D，西から東へ1・2・3・4…と番号を付し，700m²を発掘調査した。その結果，近世と縄文時代早期の遺構や遺物が確認された。

まとめ

調査の結果近世の遺構としては柱穴や土壙を検出した。これらの遺構覆土や包含層からは碗・鉢・瓶・皿等の陶磁器片，キセル，硯片が出土した。碗の多くが「くらわんか手」と呼ばれる18c中～後半にかけての肥前産の染付けであることから，これら近世の遺物や遺構もこの時期のものと考えられる。縄文時代の包含層からは，局部磨製石鏃・石錐・条痕文土器が出土した。また遺構としては炉跡・土壙を検出した。縄文時代の遺物を含んでいる土層は，出土した土器と石器の形式から，縄文時代早期の包含層であることが考えられ，年代測定でも，9000年前という結果が出た。土壙や炉跡も同時代のものと考えられる。遺物の分布が包含層の下にある舌状に張り出した土石流による堆積物の先端部に沿い，南北方向にベルト状に集中していることが特徴的である。これらの結果から小野F遺跡は，縄文時代早期と江戸時代の2回にわたり生活の場であったと考えられる。

出土状況（A－4，B－4区）

【調査担当：副島・川畑・織田，文責：織田】

⑥九州文化学園構内遺跡

所 在 地	佐世保市矢岳町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	調査面積	266m²
調査期間	平成15年９月29日～10月29日	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成19年度刊行予定	処　　置	本調査

立　地

九州文化学園構内遺跡は，弓張岳から東方へのびる舌状の小丘陵に挟まれた谷部に位置し，一部は南側の小丘陵にかかっている。標高はおよそ20メートルである。現況は，私立の高等学校の敷地であり，グラウンドを取り囲むように校舎が建っている。海岸までは直線でおよそ800mあるが，当遺跡の前面にある自衛隊や米軍の敷地は，江戸時代の新田開発によって造られた平地であり，それ以前は，海岸線までおよそ100mほどであったと考えられる。

九州文化学園構内遺跡位置図［佐世保北部］（S＝1／25,000）

調　査

調査は，グラウンドを中心に20箇所の試掘坑を設定し行ったが，東半分は造成のために多量の石炭ガラが投入されており，ペストのために焼かれたと思われる焼土層まで，５ｍ掘り下げなければならないほどであった。しかし，ＴＰ．５からは縄文時代後晩期の土器片と黒曜石の剥片が出土し，ＴＰ．12を中心に縄文時代の包含層が安定した状態で残っていた。

まとめ

九州文化学園構内遺跡は，ＴＰ．12を中心に縄文時代の包含層が残っており，包含層が確認できたＴＰ．11より南側をさらに詳細に調査する必要があると思われる。調査の必要性がある部分の面積は約6,000m²である。

【調査担当：副島・川畑・織田，文責：織田】

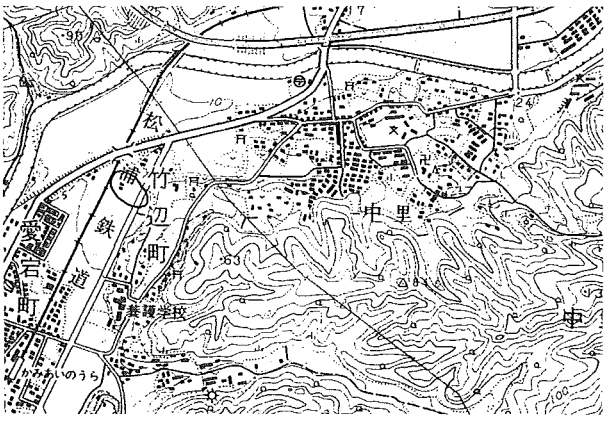
ＴＰ12東側土層

⑦竹辺（たけべ）C遺跡

所 在 地	佐世保市竹辺町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	調査面積	18m²
調査期間	平成16年1月13日～2月16日	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成19年度刊行予定	処　　置	本調査

立　地

遺跡は，相浦川が形成した標高およそ11mの河岸段丘上に位置し，北東から南西に向けて緩やかに傾斜をしている。現在は，水田として利用されている。遺跡の東には竹辺D遺跡が，西側には現在本調査中の門前遺跡が接している。本遺跡周辺は，過去に圃場整備が行われており，その際古墳時代～中世にかけての遺物がかなりの数，表採されたと聞く（一部は，「佐世保市史」に実測図が掲載されている）。そのため，同時代の大規模な集落跡の存在が予想されている。



竹辺C遺跡位置図［佐世保北部］（S＝1／25,000）

調　査

遺跡の東側に3箇所の試掘坑を設定した。東側の竹辺D遺跡に近い試掘坑からは，近世の溝を検出したが包含層は確認することができなかった。市道をはさんだ2箇所の試掘坑からは，近世と中世の遺物が混在する層を確認した。

まとめ

竹辺C遺跡は，中・近世の包含層や遺構が残っており，道路建設予定地全面をさらに詳細に調査する必要がある。調査の必要がある部分の面積は，5,250m²である。ただし，遺跡の西にある県道日野相浦線とMR松浦鉄道の間にも竹辺C遺跡の範囲が広がることが予想され，平成16年度の範囲確認調査を行う必要がある。

【調査担当：副島・川畑・織田，文責：川畑】

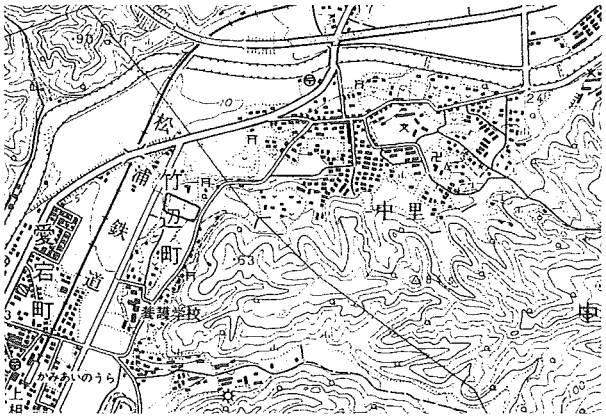
TP2北壁

⑧竹辺（たけべ）D遺跡

所 在 地	佐世保市竹辺町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	調査面積	67m²
調査期間	平成16年1月13日～2月16日	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成19年度刊行予定	処　　置	本調査

立　地

遺跡は，相浦川が形成した河岸段丘上に位置し，地形の特徴から2地点に分けることが出来る。遺跡の東側部分は，遺跡の北から南に流れる小沢により侵食され盆地状を呈し，水田として利用されている。標高はおよそ16.5mである。遺跡の西側部分は，小丘陵となり住宅地や畑地として利用されている。標高はおよそ18mである。この丘陵は西側が大きく傾斜し竹辺C遺跡へ至る。遺跡の東に隣接する丘陵には，佐世保市教委による発掘調査で，14～16世紀の陶磁器が出土した武辺城跡がある。また，近くには宗家松浦氏の墓所をはじめ中世の石造物が数多く見られ，当遺跡一帯は，古代末から中世にかけての遺跡集中地区であるといえる。



竹辺D遺跡位置図［佐世保北部］（S＝1／25,000）

調　査

東側の低地に4箇所，西側の丘陵部に9箇所の試掘坑を設定した。東側の低地は湧水が激しかったが，白磁や青磁等の輸入陶磁器片を含む中世の包含層を，最大厚60cmの良好な状態で検出した。西側の丘陵部は後世の削平を受けていたが，多数の中世や近世の柱穴と縄文時代の遺物包含層を検出した。また，丘陵西側には，わずかであるが中世の包含層が残っていた。

まとめ

竹辺D遺跡は，縄文時代～中・近世の包含層や遺構が残っており，道路建設予定地全面を更に詳細に調査する必要があると思われる。調査の必要がある部分の面積は，4,250m²である。

【調査担当：副島・川畑・織田，文責：川畑】

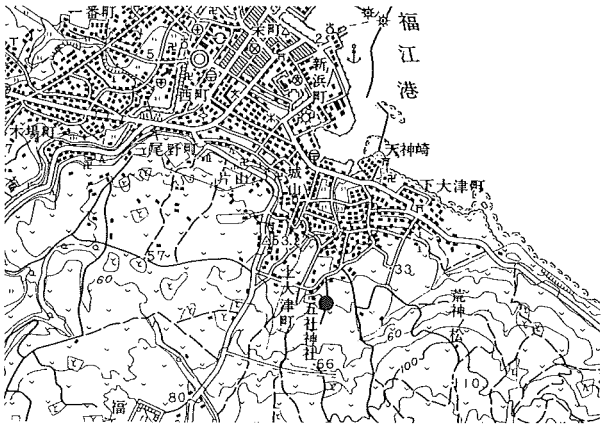
ＴＰ２東壁

⑨ 橘（たちばな） 遺跡

所 在 地	五島市下大津町字五社の上	調査主体	長崎県教育委員会
事 業 名	地域拠点遺跡発掘調査	調査面積	54m²
調査期間	平成16年３月１日～12日（10日間）	調査区分	範囲内容確認調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，埋め戻し

立　地

橘遺跡は五島市（旧福江市）の南部の段丘に位置し，標高は30～40mほどである。橘遺跡をのせる段丘は鬼岳火山群が形成した溶岩台地が浸食されてつくられたものであり，海岸から２段ないし３段の段丘面の先端に位置する。調査地は，九州大学が調査した橘遺跡が立地した段丘面から１段下がったところで，橘遺跡には含まれていない。隣接する遺跡には一本木遺跡があり，調査地は橘遺跡と一本木遺跡の中間に位置するといえる。



橘遺跡位置図［旧福江市東部］（S＝１／25,000）

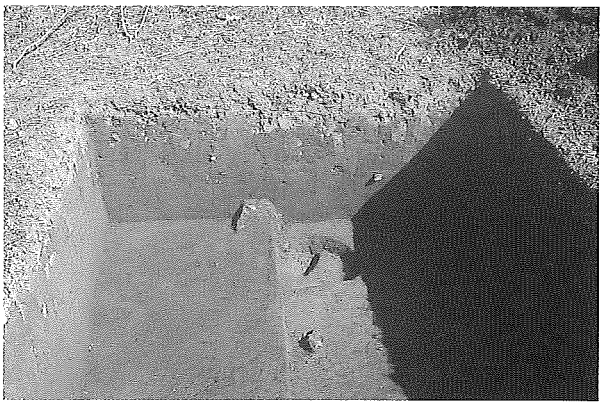
調　査

全体で９箇所の試掘坑とサブトレンチ２箇所を設定した。調査地東側の試掘坑では，表土下より基盤層起源と思われる礫群が出土し，基盤の玄武岩層が高くなっていることがわかる。南側の第５試掘坑では表土を除去すると第４層（地山）が露出し，ピット，溝が検出された。時期は不明である。ピットは建物跡ではないと判断した。北東の第１試掘坑では第２層が厚く堆積しており，弥生後期土器片や貿易陶磁片が出土した。他の試掘坑とは大きく異なって赤褐色礫を含む第３層，第４層が表出した。そこで第９試掘坑とサブトレンチを２本いれて，旧地形をさぐることとした。その結果，自然地形によるものであり，そこに弥生土器，須恵器，貿易陶磁が流れ込んでいると結論づけた。

まとめ

調査地は，出土遺物が流れ込みによるものであることや，出土した遺構も時期不明であったり，検出されたピットも柱穴の可能性が低いと判断した。したがって調査地は埋蔵文化財包蔵地として認定はできないと結論づけた。

【調査担当：古門・山田，文責：古門】

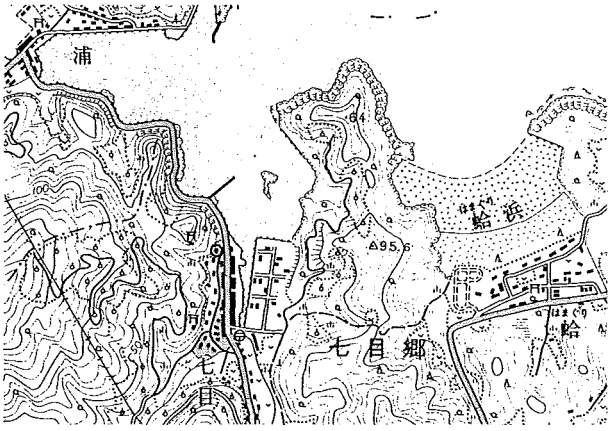

ＴＰ１北壁

⑩七目（ななめ）遺跡

所 在 地	南松浦郡有川町七目郷	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	赤瀬川通常砂防事業	調査面積	12m²
調査期間	平成15年５月12日～16日（５日間）	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後，工事

立　地

「七目遺跡」は，有川湾の湾奥に位置し，現在は埋め立てによって旧地形が改変されているが，元々は七目浦の河口に面する狭い谷間に位置する遺跡であったと推測される。遺跡地図には過去に石器と須恵器が採集されていることから，縄文時代と古墳時代の遺跡として登載されている。



七目遺跡位置図［七目］（S＝１／25,000）

調　査

調査は，工事計画区域内等に２ｍ×２ｍと，不定形の試掘坑を計３箇所設定して行い，東側の谷間の標高が高いところから低い方へＴＰ．１～３とした。ＴＰ．１の北側の谷間の標高の高いところは，立合調査の時に遺構が確認されたが，そのときの遺構は近世以降に造成したと考えられる水田の床土面の上から切り込まれていることから近世以降のものとの現地協議時の判断があった。調査地は，狭い谷間の傾斜地で，ＴＰ．１，２では部分的に黒褐色の有機質に富む土層が部分的に認められるが畑地なのか，自然堆積によるものかの判断までは至っていない。ＴＰ．３では２層の下に赤褐色粘質土層があり，その下層は灰色土層，その下は礫層となる。ＴＰ．３で時期不明の小ピットがあったが，その中の覆土からは出土遺物もなく深さも浅いことから人為的なものとは考えられない。ＴＰ．２の第３層である灰褐色混礫土層から，近・現代のコバルト釉による染付磁器片が出土した。

調査風景

まとめ

調査の結果，特に遺跡としての根拠は遺構・遺物ともに確認できなかった。よって砂防事業には支障がないと判断した。

【調査担当：村川，文責：村川】

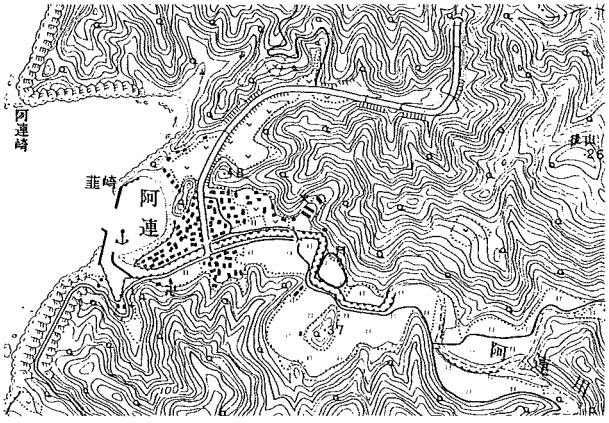
⑪雷命神社下遺跡（らいめいじんじゃした）

所 在 地	対馬市厳原町阿連219-1他	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	阿連川小規模河川改修工事	調査面積	12m²
調査期間	平成15年11月17日～11月21日（５日間）	調査区分	範囲内容確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	慎重工事

立　地

遺跡は対馬市厳原町の北西部，白嶽に源を発した阿連川の下流に位置する。雷命神社は川の蛇行部（屈曲部）の斜面に鎮座し，その南側に広がる畑地では古墳時代の遺物が採集される。

雷命神社は式内社で，「八竜神社」の名称もあり，荒ぶる阿連川を鎮める役割があったのだろう。元の集落はこれよりも上流側にあったと伝えられ，「寺畑」や「屋敷畑」といったしこ名が残っている。



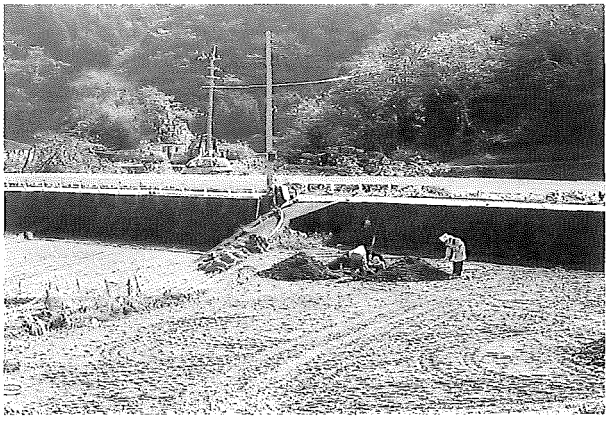
雷命神社下遺跡位置図［阿連］（S＝１／25,000）

調　査

阿連川小規模河川改修工事に伴う確認調査は，平成12年度に一度実施している。今回は未買収地であった畑地が調査可能になったことで，補完調査として実施したものである。

調査は２ｍ四方の試掘坑（以下，ＴＰと記す。）を３箇所設けて行った。平成12年度の調査を引き継ぎ，ＴＰにはそれぞれ７～９の番号を付した。結果的に，それぞれ地表下約180cm まで掘り下げたが，遺物包含層や遺物を確認するには至らなかった。

試掘坑の土層は大きく４層に大別できた。第１層は表土層（畑の耕作土），第２層は明褐色土層，第３層は砂礫層で，４cm 前後の砂利と砂質土が互層をなす。第４層は明茶褐色砂礫層で，小砂利に明茶褐色粘質土が混在する。第３層以下は河川堆積物であり，第４層上面（海抜２ｍ）前後は川の水が浸み出すような状況であった。これまでの調査事例から察すると，第３層以下は拳大～人頭大の円礫と砂の堆積がみられるだけで，遺物の出土が望める可能性は低い。


調査風景

まとめ

今回，範囲確認調査を実施した場所では明確な遺構・遺物は確認されなかったが，東側にある雷命神社の山裾部分では遺物の散布がみられ，遺跡範囲はこの部分に限定できそうである。

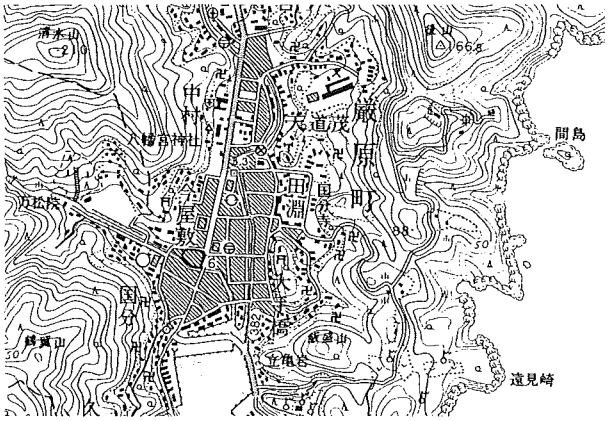
【調査担当：本田，文責：本田】

⑫今屋敷家老屋敷跡（いまやしきかろうやしき）

所 在 地	対馬市厳原町今屋敷	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	都市計画道路厳原豆酘美津島線改築工事	調査面積	285.76m²
調査期間	平成15年７月14日～10月17日（96日間）	調査区分	本発掘調査
報 告 書	平成15年度刊行	処　　置	調査後，工事

立　地

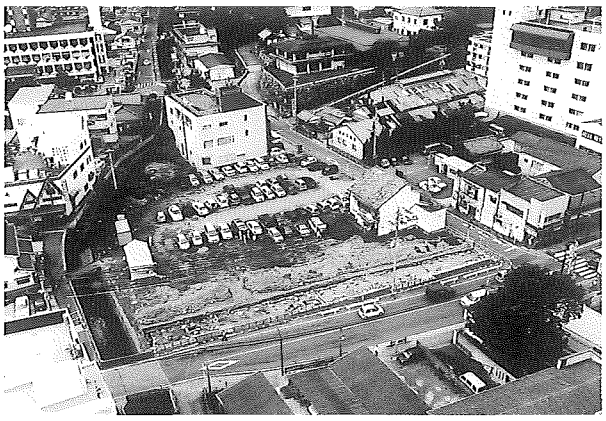
対馬市厳原町の市街地は，三方を山に囲まれ，南が唯一海に開けた地形をなす。遺跡のある今屋敷は厳原の中心部にあり，対馬の政庁が置かれた金石城や宗家墓所の万松院への登城口にあたる。調査地は標高３ｍ前後で，金石川沿いにあり，対馬藩家老・古川図書の屋敷地に相当する。文化八年（1811）には，朝鮮通信使接遇のため来島した井上美濃守の宿館として利用されたことが絵図等で知られている。



今屋敷家老屋敷跡位置図［厳原］（S＝１／25,000）

調　査

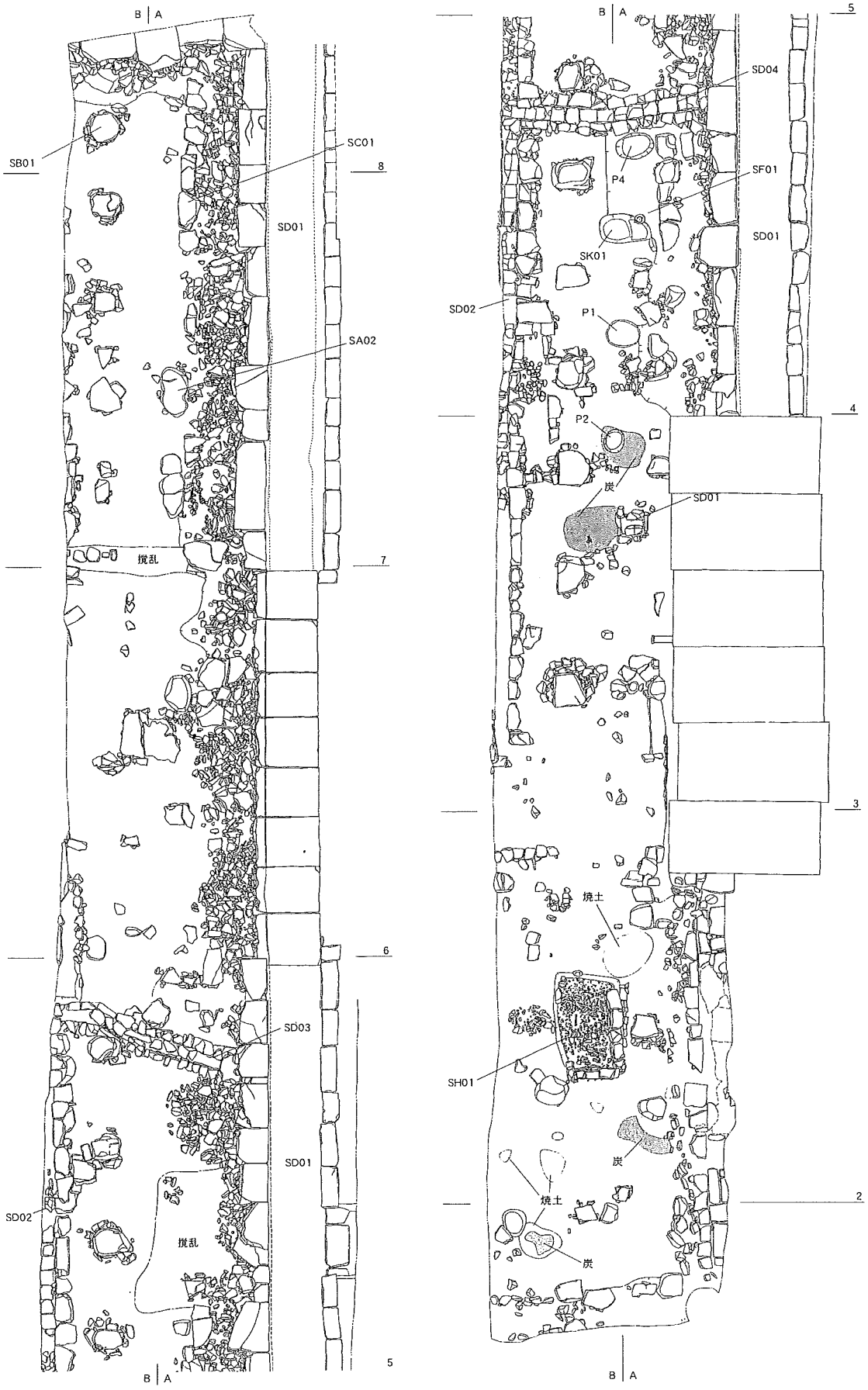
今屋敷家老屋敷跡は上級家臣団の屋敷が軒を連ねる「馬場筋通り」に面している。この通りは現在の都市計画道路とほぼ重なり，道路拡幅に際して屋敷地の長屋門跡が事業計画地に含まれることから，発掘調査を実施することとなった。調査ではⅢ層とⅨ層の上面でそれぞれ整地層が検出され，Ⅲ層では建物跡（SB01），溝跡（SD01・02），胞衣壺遺構（SF01），カマド遺構（SG01），石組遺構（SH01），土坑（SK01），ピット（P1・2・4）が，Ⅸ層からは石壁遺構（SC01），石組遺構（SH02），暗渠遺構（SZ01），ピット（P5～P8）が確認できた。この他，Ⅲ層直下でも礎石列（SA01・02），不明遺構（SX01），玉砂利遺構（SS01），不明石列（SV01）がみつかっている。出土遺物等から判断して，Ⅲ層の遺構年代は17世紀後半～19世紀代，Ⅸ層は16世紀中頃以降と考えられる。また，Ⅲ層直下は16世紀後半～17世紀前半頃と判断できよう。遺物は約4,500点が出土し，国産の土器・陶磁器・瓦類の他，中国や朝鮮半島，東南アジアの陶磁器類，朝鮮系瓦等多岐にわたっている。


遺跡遠景

まとめ

今回の調査で16世紀代の遺構や遺物がまとまって出土したことは，享禄元年（1528）の金石屋形（金石城）築城を機に厳原府中の諸整備が始まったことを意味するものと思われる。

【調査担当：本田・樋口，文責：本田】



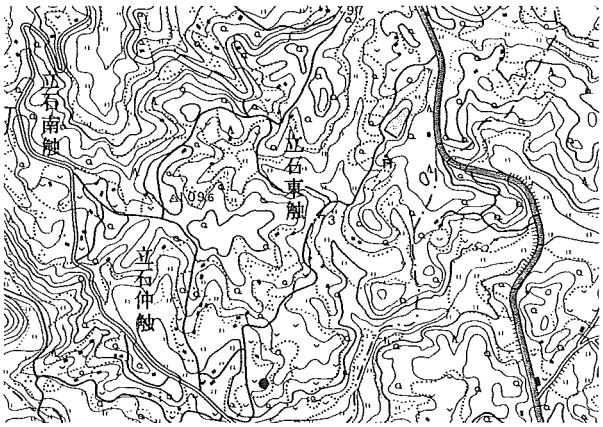
Ⅲ層上面検出遺構（S＝1／100）

⑬カラカミ遺跡

所 在 地	壱岐市勝本町立石東触字カラカミ・国柳・川久保	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	地域拠点遺跡発掘調査	調査面積	37m²
調査期間	平成15年11月17日～28日（12日間）	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，埋め戻し

立　地

「カラカミ遺跡」は標高約88mの香良加美神社を最高所とし，神社を中心に，緩やかに傾斜する丘陵上に位置する。香良加美神社の周囲，半径約1.5kmが遺跡範囲に該当する。遺跡の東から南にかけては急斜面で，天然の要害をなす。これまで東亜考古学会，九州大学，および勝本町教育委員会によって発掘調査が実施されているが，東亜考古学会ならびに九州大学の調査成果は未公表である。そのため，遺跡の概要は把握されているものの，詳細については不明な点が多い。とくに住居跡は未検出で，居住地の特定は今後の課題となっている。



カラカミ遺跡位置図［カラカミ］（S＝1／25,000）

調　査

今回1～4試掘坑では今回は土器の出土もなく，遺構も発見できなかった（第5試掘坑－試掘回避）。第6試掘坑は東亜考古学会が調査した小川貝塚をのせる畑の隣接地に設定。客土をはずすと旧耕作土があらわれた。粘質土ではあるが，軟らかく，ピット3基を検出した。そのうちＰ２，Ｐ３は耕作土ないし整地層より堀込まれた遺構である。Ｐ１は内部より弥生時代後期の壺形土器の口縁部が出土し，時期は弥生時代後期ないしそれ以前と思われる。また，調査区の近くにある畑より遺物を表採した。ここでは多量の土器片および磨製石剣片を採集した。石剣は残存長10cm，幅3cmで，鎬はない。

まとめ

今回の調査では第6試掘坑において，弥生時代後期の遺構面を検出したのみである。第6試掘坑は甕棺などを出土した地区を俯瞰する場所にあり，居住域が予想される地区である。また，環濠の位置は特定できなかった。

【調査担当：古門，文責：古門】

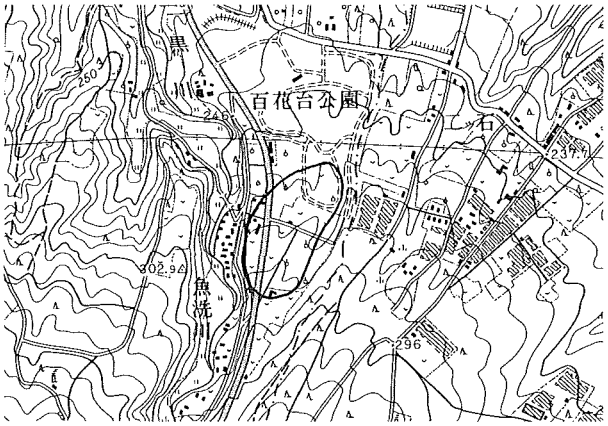
第6試掘坑遺構検出状況

⑭魚洗川（いわれご）B遺跡

所 在 地	南高来郡国見町金山名横道上	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	開発予備調査	調査面積	124m²
調査期間	平成15年11月10日～12月４日	調査区分	範囲内容確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	慎重工事

立　地

「魚洗川Ｂ遺跡」は，「百花台遺跡群」の南方にある旧石器時代～縄文時代の複合遺跡である。雲仙火山北麓の土黒川と多比良川に囲まれた火山性扇状地の標高250ｍ前後に位置する。良好なテフラが堆積しており九州地方を代表する重層遺跡であることが確認された。後期旧石器時代の編年の鍵となる広域テフラのＡＴが第Ⅵ層下部に，縄文早期のアカホヤが第Ⅱ層に検出されることが判明している。



魚洗川Ｂ遺跡位置図［島原］（Ｓ＝１／25,000）

調　査

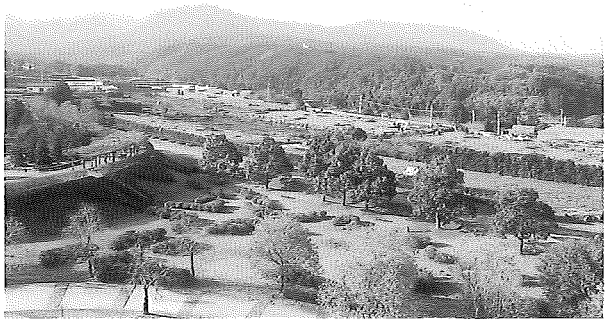
今回の調査は，将来の県営公園拡張に備えるもので，駐車場建設予定地に20ｍメッシュを組み，２×２ｍの試掘坑を31ヶ所を調査した。結果からいうといずれの試掘坑からも遺物を検出することはできなかった。調査対象区域は，果樹園として造成されており全域にわたって，土地改良のため第Ⅳ層の樫の実層（礫石原火砕流）の上面まで客土された状態であり，客土からも遺物は出土しなかった。後期旧石器時代に該当する第Ⅳ層から下位の層位は，試掘坑によって厚さの相違はあるもののいずれの試掘坑からも第Ⅷ層まで良好な堆積を確認できた。谷部の設けた試掘坑では第Ⅵｃ層が分厚く堆積しており，ＡＴと思われる黄色の粒子ブロックが確認できる地点もあった。

良好な火山灰堆積層を有しながら，石器群が検出されなかったことの一つの要因としては，まとまって出土する傾向のある旧石器時代の遺跡の範囲確認調査としては，間隔が開きすぎた可能性も否定できない。

まとめ

調査の結果からすれば，今後の工事に支障はないものと判断される。しかし狩猟活動の一端を示す落とし穴などが存在する可能性は否定できず，工事にあたっては慎重に行う必要がある。

【調査担当：川道・樋口，文責：川道】

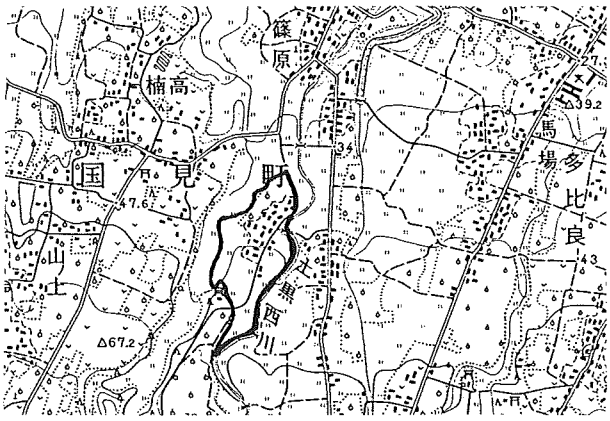

遺跡遠景

⑮上篠原（かみしのはら）遺跡

所 在 地	南高来郡国見町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	地域拠点遺跡内容確認調査	調査面積	72m²
調査期間	平成16年２月23日～３月５日（９日間）	調査区分	範囲内容確認調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	処　　置	調査後，埋め戻し

立　地

本遺跡は，島原半島北側の国見町に位置しており，北は有明海，南には雲仙連峰を望むことができる。標高はおよそ37mで，土黒川と倉地川に挟まれ，段丘状に小高くなっている場所に立地している。早くから陶質土器が出土する遺跡として知られていたが，昭和60年に長崎県立国見高校が２度にわたって行った調査では，完形の陶質土器と多くの土師器が出土している。



上篠原遺跡位置図［多比良］（S＝１／25,000）

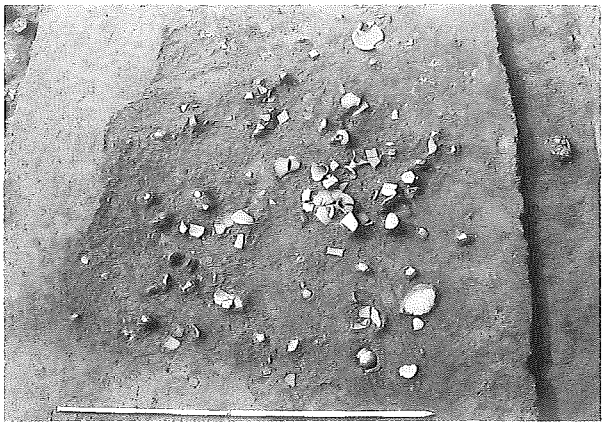
調　査

調査は当初，前回調査区の一部を含め，畑の北側に計４箇所の試掘坑を設定した。しかしミカン植樹坑や盗掘坑が点在し良好な遺構を検出できなかったため，新たに２箇所設けた。その結果，５区では柱穴群，６区では数基の土坑を確認することができ，土師器の高杯・甕などの遺物が多数出土した。調査区内の基本層序は第８層まで分けられ，６区ではすべての遺構が第５層を掘り込んでいた。そしてこの第５層を覆うように黒色土で整地された硬化面があった。硬化面を取り除くと，土器溜りと焼土層を含む土坑が検出された。

まとめ

今回の調査は，前回の調査にて検出された遺構の再検討，及び遺跡の範囲確認を目的として行った。しかし残念ながら今回は，調査範囲を広げることができず，遺跡の範囲は把握できなかった。

【調査担当：川道・柚木，文責：柚木】

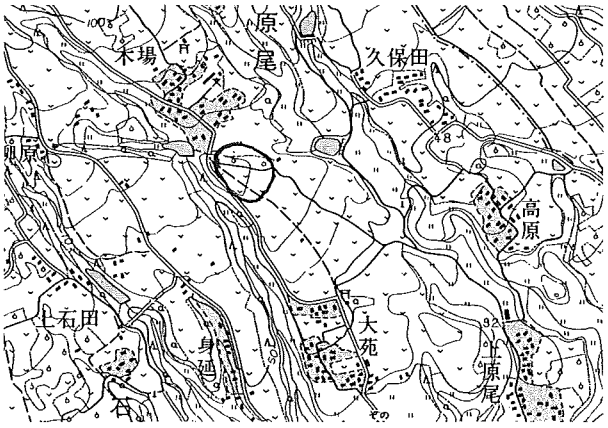

６区土器溜り検出状況

⑯下木場（しもこば）遺跡

所 在 地	南高来郡有家町原尾下木場	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	農免農道建設工事	調査面積	800m²
調査期間	平成15年８月18日～10月31日（75日間）	調査区分	本発掘調査
報 告 書	平成15年度刊行	処　　置	調査後，工事

立　地

遺跡は島原半島東南部にある有家町の南部に位置する。西側には貝森川が流れ，流域は深い谷を形成している。遺跡をのせる丘陵は標高50m～70mほどにあり，主に畑地として利用されている。遺跡付近には藩政時代に築かれた木場堤があり，付近の水田の水源となっている。本遺跡名は「下木場遺跡」であるが，本来は「通野遺跡」であるという。



下木場遺跡位置図［多比良］（S＝1／25,000）

調　査

調査は４×４ｍを基本としたグリッド法で実施した。第２層で弥生時代後期包含層，第３層・第４層で縄文時代早期包含層を確認した。しかし耕作による層位の乱れがあり，丘陵のため斜めに堆積していた。遺構は溝を３基，土壙を６基，ピットを121基検出した。溝の１つは新しい時代であったが，２つは弥生時代後期である。土壙はいずれも性格不明であった。ピットは弥生時代後期かそれ以前であるが，規則的な配列はなかった。出土遺物は高所からの流れ込みが多い。土器は縄文時代早期の押型文土器や縄文時代晩期の土器が主に出土し，弥生時代後期の土器，古墳時代の土器も出土した。石器は旧石器時代のナイフ形石器や，縄文時代早期の局部磨製石鏃，打製石器などが出土した。表採ではあるが，旧石器時代の三稜尖頭器があった。

まとめ

下木場遺跡では，弥生時代後期の遺構を検出した。さらに島原半島南部では未確認であった旧石器時代の石器を確認した。また島原半島全体でも極めて珍しい縄文時代早期の局部磨製石器も確認した。今回の調査で，遺跡周辺には旧石器時代から縄文時代早期，弥生時代後期，古墳時代前半に人々が生活していたことが判明した。

【調査担当：古門・山田，文責：古門】

遺跡遠景

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 12
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査年報
シリーズ番号	第 182 集
編集者名	和田政則
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町 2-13 TEL 095-824-1111
発行年月日	西暦 2005 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長崎奉行所跡など 16 遺跡	長崎市立山 1丁目1番1号 ほか							

長崎県文化財調査報告書　第182集

長崎県埋蔵文化財調査年報12

（平成15年度調査分）

平成17年３月31日

発　　行　　長崎県教育委員会

長崎市江戸町２-13

印　　刷　　（有）正文社印刷所